総社・元総社

歴史とロマンの散歩道

前橋市教育委員会

はじめに

総社・元総社地区は古代より群馬県の中枢地として栄えた地です。古墳時代は立派な古墳が築かれ、奈良時代には国府がおかれ国分僧寺・尼寺が建てられ、政治・文化の中心地として発展しました。

戦国時代総社長尾氏により蒼海城が築かれ、その後上杉・武田・北条氏の争乱の地にもなっています。

近世になり秋元氏の入封により蒼海城から勝山の地に総社城が築かれ、城下では街道、町割、灌漑用水等の整備が行われました。

その後、秋元氏は甲州谷村への転封となり、この地は、高崎・沼田・前橋藩領等の幾多の変遷をたどります。

現在の総社は江戸期に始まったもので、元総社は中世の総社の地名を継承しています。

このような歴史のあかしとして多くの史跡、文化財が残されている総社・元総社の地を多くの方々に知っていただき、文化財にふれ、親しんでいただくためにこの冊子を作成しました。ここに紹介した歴史散歩道のモデルコースは、あくまでも基本的なものです。この冊子を活用して、自分なりの歴史散歩をしてみてください。

凡例

1．本書は、総社・元総社歴史散歩道を徒歩や自転車で巡るためのガイドブックとして、写真、地図を多く使い、簡易な解説を加えて作成したもの。
2．使用した現況図は、前橋市役所発行のもの。地図上の案内表示は、右の説明を参照。
3．本文のタイトル右側の( )は、掲載地図ページを示す。
4．監修は、前橋市文化財調査委員の松島榮治氏にお願いした。
5．参考文献
　前橋市史。前橋の伝説百話。前橋事典。まえばしポケットガイド。図説前橋の歴史。「総社・元総社」歴史の散歩道計画。

案内表示

総社・元総社地区には、道標・壁面プレート・路面プレートの３種類の標識が道路の分岐点・見所の近くに設置されています。

道標
周辺の文化財の位置やそこへ行く道順を小さな地図で案内します。見所の近くや、道路が分かれるところに建てられています。

壁面プレート
道標を建てられないところでは、ブロック塀などについています。矢印や地図により道順を案内します。

路面プレート
道路が分かれるところの路面に埋め込まれています。道順を矢印で案内します。

平成11年度山王廃寺調査で出土した塑像
（俗形婦人像頭部）

市指定重要無形文化財　植野稲荷神社太々神楽
大麻（大きな麻を持って舞う）

目　次

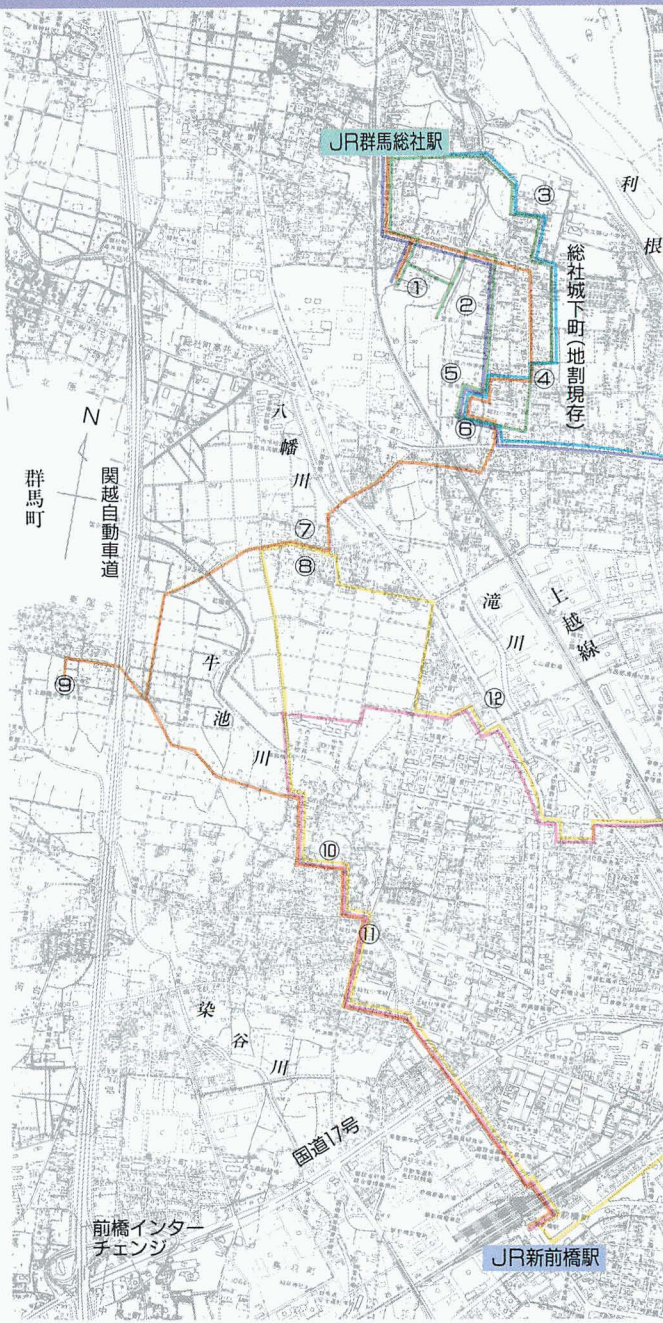
- 総社・元総社歴史散歩道全体図…… 2
- 天狗岩コース…… 4
- 古代ロマンコース……14
- 石造物コース……24
- 利根のかけ橋コース……30
- せせらぎコース……44
- 市街地コース……46
- ＪＲ群馬総社駅からの歴史散歩道……48
- ＪＲ新前橋駅からの歴史散歩道……49
- ＪＲ前橋駅からの歴史散歩道……50
- バス路線……51
- 総社・元総社地区の
  行事、神社、寺院、石造物一覧……60
- さくいん……63
- 見学のときの注意事項

総社・元総社 歴史散歩道 モデルコース

1、天狗岩コース (P.4)
2、古代ロマンコース (P.14)
3、石造物コース (P.24)
4、利根のかけ橋コース (P.30)
5、せせらぎコース (P.44)
6、市街地コース (P.46)

総社・元総社 歴史散歩道起点

- ◆ JR群馬総社駅
- ◆ JR新前橋駅
- ◆ JR前橋駅



主な見学地

① （総社）二子山古墳
② 天狗岩用水
③ 元景寺
④ 粟島大神宮
⑤ 光巌寺
⑥ 宝塔山古墳
⑦ 山王廃寺
⑧ 小栗上野介旧宅
⑨ 上野国分寺跡
⑩ 宮鍋様
⑪ 総社神社
⑫ 丁間稲荷神社
⑬ 林倉寺
⑭ 敷島公園
⑮ 観民稲荷神社
⑯ グリーン・ドーム前橋
⑰ 臨江閣
⑱ 前橋城跡
⑲ 龍海院
⑳ 広瀬川

1 天狗岩コース

↑百庚申へ
至吉岡町
植野稲荷神社
観音寺
JR
群馬総社駅
文化財史跡案内板
勝山城跡
利
根
川
正法寺へ
高井の
神明宮へ
諏訪神社
元景寺
勝山小
発電所跡
総社城
西木戸跡
(総社)
二子山古墳
立石橋
五千石用水
上
越
線
熊谷稲荷神社
愛宕山古墳
天
狗
岩
用
水
総社城跡
遠見山古墳
六中
総社
公民館
総社資料館
粟島大神宮
光厳寺
総社小
産
業
道
路
宝塔山古墳
蛇穴山古墳
巣鳥神社
大渡橋西詰
大渡橋
八
幡
川
総社城南木戸跡
野馬の不動尊
至
市
街
地
猿
谷
橋
出口の子育て地蔵尊
至山王地区

（総社）二子山古墳

元景寺山門

・コース（約５㎞）

ＪＲ群馬総社駅 —600m— （総社）二子山古墳 —400m— 愛宕山古墳 —300m— 天狗岩用水（立石橋）

↓ 800m		↓ 800m
元　景　寺		光　巌　寺
↓ 850m		↓ 50m

総社資料館 —300m— 蛇穴山古墳 —200m— 宝塔山古墳

・所要時間

・徒歩……３時間
・自転車……２時間

・概要と魅力

総社町を一巡りし、総社地区の主要な史跡、文化財を見学するコース。拠点はＪＲ群馬総社駅。徒歩でも、半日あればゆっくり見て回れる。

（総社）二子山古墳、愛宕山古墳、宝塔山古墳、蛇穴山古墳（ほとんどが国指定史跡）の築造時代の相違を考えながら、古墳の墳丘や石室の見学。総社城主秋元氏の菩提寺である光巌寺・元景寺への参拝。天狗岩用水、総社資料館裏の五千石用水、熊谷稲荷神社近くの赤城山の景観。こけし工場の見学をして気にいったものがあればおみやげに、と様々な角度から楽しめるコース。歴史散歩の第一歩はこのコースから始めてはいかがでしょう。

■JR群馬総社駅・(総社)二子山古墳周辺

JR群馬総社駅（P.6）

JR上越線の駅で、大正10年（1921）7月、上越線が新前橋駅から渋川駅まで開通した時に営業を開始した。列車本数は上・下合わせて約60本（上・下線とも始発は6時台、最終は9時台）。総社・元総社歴史散歩道の拠点となる駅で、駅前には史跡文化財の案内板がある。

JR群馬総社駅

関口専司の碑（P.6）

総社近代こけし製造の先駆者。JR群馬総社駅前に、時の知事竹腰俊蔵筆の頌徳碑が建てられている。現在も群馬総社駅周辺の歴史散歩道沿いには、いくつかのこけし工場があり、希望者には販売もしてくれる。

諏訪神社（P.6）

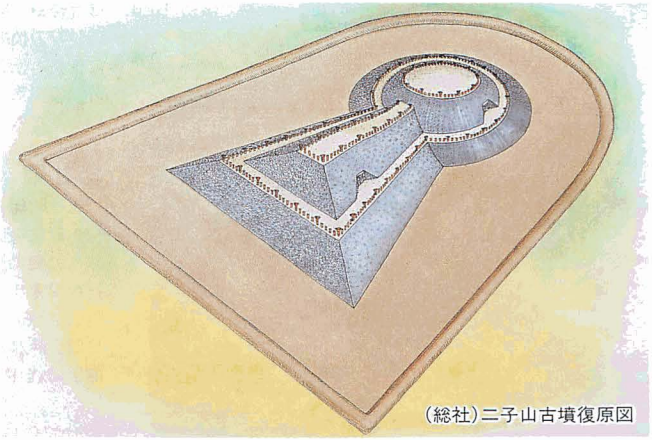
文禄元年（1592）諏訪安芸守頼忠が総社の地に封ぜられた際、信州の上・下諏訪神社を元景寺裏に勧請したのが始まり。その後、利根川の洪水により社殿が崩壊したため、明治32年に上・下両社を合祀し、現在地へ遷座した。境内には、庚申塔をはじめとして石造物がたくさんある。毎年、10月第2土曜・日曜日に獅子舞が奉納される。

［伝説］丸橋忠弥と総社（P.6）

慶安4年（1651）に幕府転覆を謀った丸橋忠弥は、総社町植野の生まれだったという話が残っている。太田道灌の末裔、丸橋栄女は流浪して植野村へきた。同村の中島家の娘婿になったが姓は丸橋と称した。その孫が、丸橋忠弥。忠弥は、年少の頃より豪胆活発で、骨格偉大、体力は人に過ぎたという。後に江戸に出て事件を起こした時、村では丸橋姓を山田に改め、その累の及ぶのを防いだという。書類系譜の如きは隠匿したので今はないが、山田家の紋が「桔梗」なのが、その一つの証という。

（総社）二子山古墳（P.6）

6世紀後半から6世紀末に造られた全長約90mの前方後円墳。前方部と後円部に一つずつ横穴式石室をもつ、全国的にも珍しい古墳。豊城入彦命の墓との伝承があり、前方部頂上に碑が建っている。国指定史跡で、春は桜の名所となる。


（総社）二子山古墳復原図

愛宕山古墳

愛宕山古墳（P.6）

7世紀前半に造られた方墳。現状での規模は、1辺約56m、高さ8.5mになる。巨石巨室の横穴式両袖型石室は、凝灰岩製の家形石棺が安置されており、見学が可能。

天狗岩用水（P.6）

慶長9年(1604)総社藩主秋元長朝により開削された農業用水。足掛け3年を費した難工事で、天狗が現われて大岩を取り除いて工事が完成したとの伝説から、天狗岩用水と呼ばれるようになった。前橋市内の小学校4年の社会科教材になっている。

天狗岩用水と総社発電所取水口跡

五千石用水（P.6）

元景寺の裏で天狗岩用水と分かれ、総社地内をめぐり山王から元総社・東地区に至る用水。名称は、その地域の米の取れ高が五千石に達したことから起こったもの。天狗岩用水とともに総社城の防御施設である外堀の機能も兼ねていた。

総社城西木戸跡（P.6）

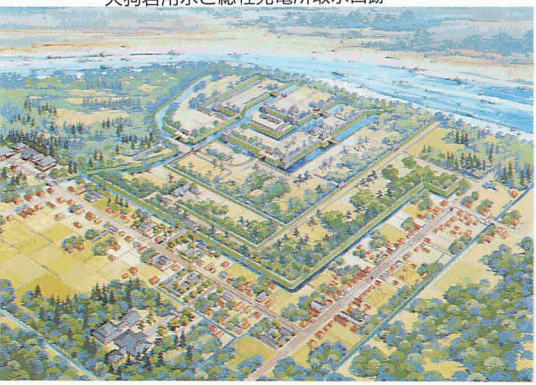
秋元長朝により築かれた総社城城下町の西木戸として、新田と立石の境を流れる天狗岩用水の立石橋東側に設けられた。今は、昔のおもかげはないが、橋のたもとに西木戸跡を示す標柱と馬頭観世音の石碑が建っている。

群馬県水力発電発祥の地（P.6）

天狗岩用水にかかる立石橋の下に、明治27年5月に、群馬県で最初（全国では5番目）に水力発電を始めた総社発電所のレンガ積取水口跡が残っている。電灯用に夕刻から朝まで50キロワット（1,000灯分）の電気を起こし、前橋市内に送電していたが、大正3年には廃止になった。

総社宿（P.6）

総社町総社は、秋元氏が甲州(山梨県)谷村へ転封後は、城下町から佐渡街道の宿場町へと変わった。この街道を佐渡の金山奉行が幕末まで利用していたためか、今でも町には昔の地割が残されている。道の両側に飲食店などの店が並んでいるので、歴史散歩の途中ちょっと立寄るのに都合がよい。



総社城総社城下想像復原図

■宝塔山古墳周辺

総社公民館（P.9）

昭和29年に前橋市へ合併する前の総社町役場のあった所に位置する。南に宝塔山古墳、西に光厳寺、東に五千石用水があり、総社地区の歴史散歩の拠点となる。入口に史跡、文化財の案内板が建っている。

光厳寺楼門

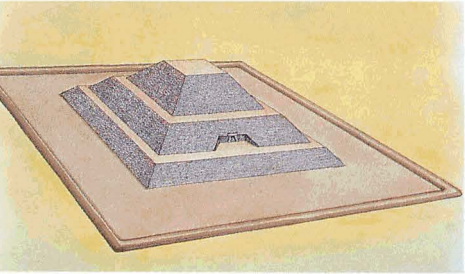
光厳寺（P.9）

総社藩主秋元長朝が菩提寺として建立した寺。境内には、県指定史跡「力田遺愛碑」をはじめ、江戸初期と推定される「薬医門」や室町期と推定される「東覚寺層塔」等がある。秋元氏の位牌が安置されているご廟所には「八方睨みの龍」といわれる天井画が描かれている。（天井画見学には拝観料が必要）

力田遺愛碑（P.9）

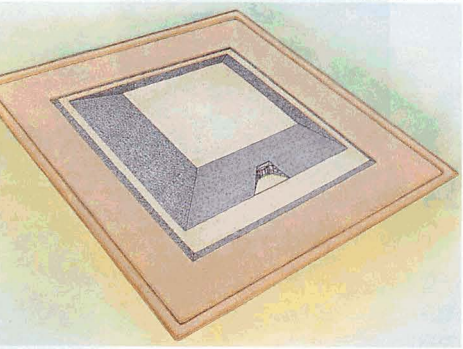
光厳寺の境内、ご廟所前に建つ石碑。この"田に力めて愛を遺せし碑"は、慶長9年（1604）に完成した天狗岩用水によって恩恵を受けた農民が、用水を開削した秋元長朝の業績に感謝して安永5年（1776）に建てたもの。県指定史跡。

力田遺愛碑



宝塔山古墳復原図

蛇穴山古墳



蛇穴山古墳復原図

宝塔山古墳（P. 9）

光厳寺と総社小学校の間にあり、一辺が約60m、東部分が削られ49m、高さ11mの方墳。南面中腹に横穴式石室が開口し、自由に見学できる。石棺は、仏教の影響を受けた格狭間つきの家形石棺で全国的にも珍しいもの。７世紀後半の築造と推定され、国指定史跡になっている。頂上部には、秋元氏歴代墓地がある。

蛇穴山古墳（P. 9）

宝塔山古墳の東、総社小学校の南にある古墳時代終末期（７世紀末）の方墳。截石切組み積みの横穴式石室は大変精巧で、内部には漆喰塗布の跡がある。古墳の名称は、江戸時代に石室内に祀られた宇賀神の「ウ」を表わす梵字が蛇に似ていることからついたものといわれている。国指定の史跡。

［伝説］蛇穴山古墳（P. 9）

上毛野田道は、あるとき蝦夷征伐に出かけたが、戦いで敗れ、蛇穴山に葬られた。勝ち誇る蝦夷は、上野国まで侵入、田道の墓まであばきはじめた。このとき、塚から大蛇が現れ、毒気を吹いて、蝦夷を撃退した。これは、蛇穴山に葬むられた田道が仇を討ったためといわれている。

総社資料館（P. 9）

この施設には、総社・元総社地区をはじめとする市西部地域の考古、歴史、民俗に関する資料が展示されている。開館日には、ボランティアガイドがいて、歴史散歩道のガイダンス施設としての利用もできる。この建物は、総社宿の中心に位置する本間酒店（「惣嬉」の銘柄で知られた造り酒屋」）の酒蔵を利用している。

粟島大神宮（P. 9）

粟島大神宮は、秋元氏が総社の町づくりを始めた時に、伊勢神宮の遙拝殿である伊勢殿をこの地に造ったことに始まる。以来総社町の総鎮守として今日に至っている。現在入口に12本柱の門構えがあるが、ここに遙拝殿の額が掲げられている。例祭は毎年２月18日と10月８日。昔、この附近が総社城の大手口になっていた。

総社宿本陣跡（P. 9）

粟島大神宮を南下し、大渡橋方向に左折する交差点の北東角に、佐渡街道総社宿の本陣があった。本陣は、江戸時代の大名の道中宿である。元藩主秋元侯が菩提所の光厳寺及び元景寺の先祖の御霊に礼拝されるときは、必ずこの本陣で休息されたといわれている。

出口の子育て地蔵尊（P. 9）

城下町と旧村元総社との通路として用いられたのが、字鍛冶町の出口である。この出口には簡単な木戸があり、城の外濠には橋がかけられていた。この附近には、濠の他に用水もあり、子供たちの水死の事故があったのかもしれない。その供養とともに子供守護を祈願して造立されたのがこの地蔵尊である。

総社跨線橋（P. 9）

光厳寺の南、県道前橋・箕郷線が上越線を越える陸橋。橋の両側には歩道が設けられており、歩行者も横断できる。橋の上からは、天狗岩用水、光厳寺、宝塔山古墳などが一望のもとに見渡せる。榛名山、赤城山の眺めもよい。歴史散歩道のコース外だが、ここを通っても大屋敷へ行ける。

猿谷橋（P. 9）

出口の子育て地蔵尊を西に向かい、上越線の下を通り、大屋敷から山王へぬける道の天狗岩用水にかかる橋。その昔、新田町の問屋猿谷六左衛門が、新田町と大屋敷の交流をはかるため、橋をかける役をしたことから猿谷橋と命名されたらしい。天狗岩用水との景観がよい。

粟島大神宮

出口の子育て地蔵尊

総社資料館と五千石用水

■元景寺周辺

五千石用水沿いに（P.12）

栗島大神宮北側の道を東へ向かうと、五千石用水にかかる大手門橋（総社城の大手門があったので命名された）がある。この大手門橋から北へ進路を取り、五千石用水に沿う道を歩くと右手に名山赤城山の全容が見える。その他、用水沿いには、熊谷稲荷神社・猿谷家の墓・双体道祖神などがあり、目をあきさせない。

遠見山古墳（P.12）

5世紀後半頃造られたと推定される墳丘長70m前後の前方後円墳。江戸時代に築造された総社城の城内にあり、墳丘が遠見の櫓として利用されたことからこの名がついている。現在、墳丘全体が篠で覆われており、墳丘に登るのは危険。

熊谷稲荷神社（P.12）

秋元氏転封後、総社の地を治めた安藤出雲守の虐政に耐えかねた農民は、寛文3年（1663）江戸へ出て直訴をくわだてた。途中、熊谷の稲荷で落ち合い、この神社の加護を祈った。この訴えは、農民側の勝訴となった。そこで、人々はここに熊谷稲荷を勧請したといわれている。境内には多くの庚申塔があり、庚申山とも呼ばれている。

元景寺（P.12）

初代総社藩主秋元長朝が父景朝の菩提を弔うために建立した寺。境内には、秋元氏墓地（市指定史跡）、石造地蔵菩薩坐像（応永28年（1421）銘、市指定重要文化財）天明の供養塔、天狗岩用水の天狗伝説にまつわる羽階権現などがある。

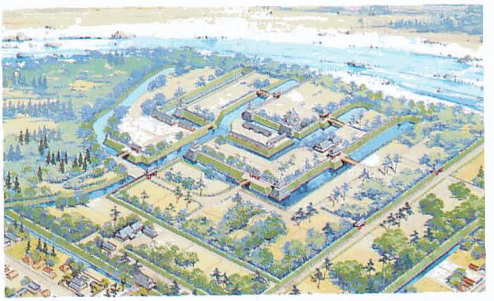
総社城跡（P.12）

総社城は、天狗岩用水開削後、秋元長朝により慶長12年（1607）に築城された。城地は、東は利根川、西は天狗岩用水を外堀とし、城の廻りに城下町を造り、佐渡街道を通した。この本の表紙の絵が、総社城と総社宿の推定復原図である。

石造地蔵菩薩坐像（元景寺）

［伝説］元景寺の梅（P.12）

元和元年（1615）大坂夏の陣のおり、淀君は秋元長朝の陣に助けを求めた。戦いが終わり、淀君をかごに乗せ総社に帰る途中、長朝は信濃路にあった紅梅の木を、生来、淀君が好きなのを知って、掘り取らせ持ち帰った。淀君は、その木を自ら上野（その後、植野となる）の原に植えた。今に残る元景寺参道の梅は、その後を継いだものという。



総社城想像復原図

群馬総社駅周辺のその他の文化財

植野稲荷神社（P.4）

明治初期に完成した拝殿の彫刻は大変すばらしい。毎年4月の第1日曜日には春祭りが行われ、神楽（市指定重要文化財）が奉納される。

植野稲荷神社太々神楽

石田玄圭の墓（P.14）

高井の神明宮の西、東西堀のわきに県指定史跡、石田玄圭の墓がある。彼は、本業である医業のかたわら、当時最新の数学や暦学を学び、農業に役立つ「暦学小成」を著すなど大きな業績を残した。群馬県が生んだ和算家の一人。

正法寺の輪廻塔（P.4）

関越自動車道を横切って少し西へ行った県道前橋・伊香保線沿いに正法寺がある。境内には、その昔、人々が輪廻車を回しながら念仏を唱えたとされる輪廻塔（六地蔵石幢）が残っている。一見の価値有。

観音寺（P.4）

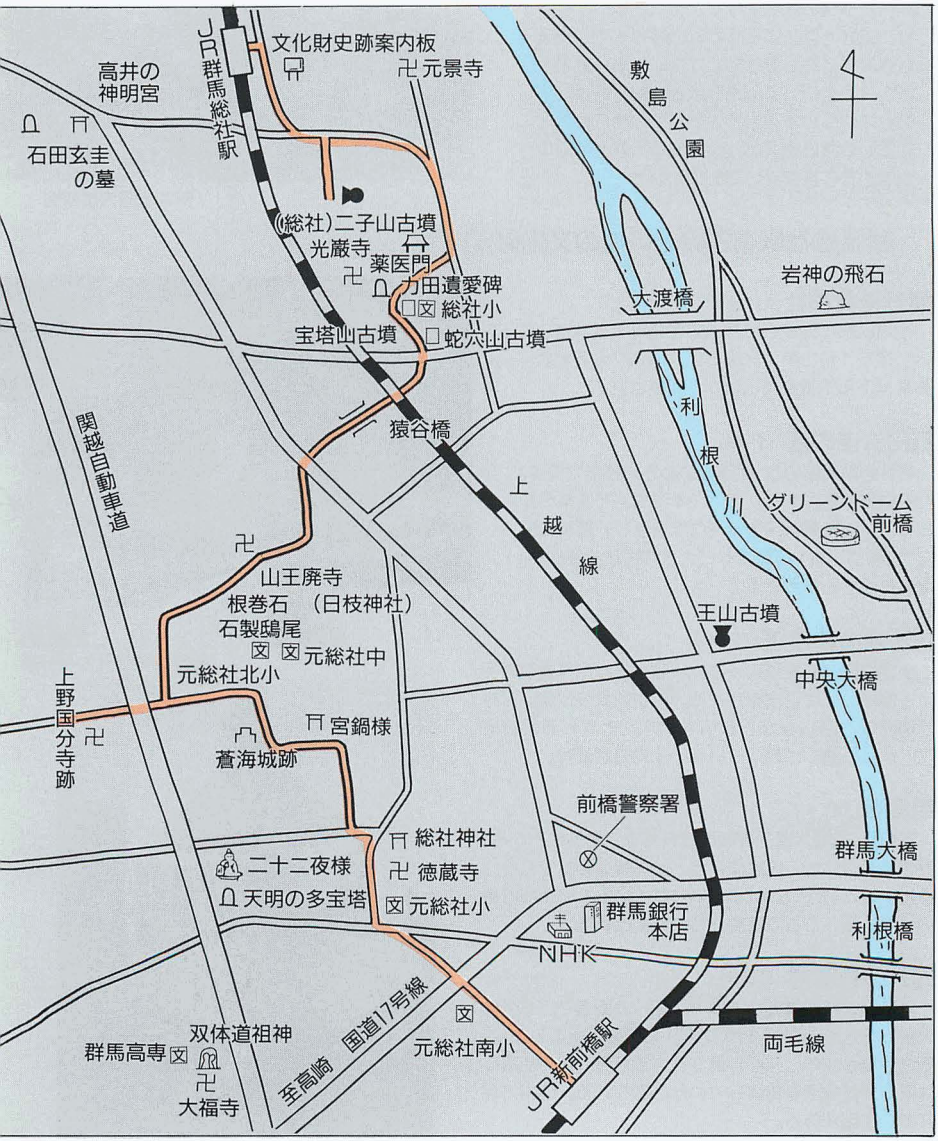
本尊が、三面六臂の馬頭観世音菩薩であることから、寺の名がついた。伝説によると、本尊は秘仏であり、拝観すると目がつぶれるといわれている。群馬郡21番の札所。昔、ここで競馬が行われたという。

高井の神明宮（P.14）

本殿及び幣殿は元禄5年（1692）の築造で、その後大破したものを天明2年（1782）に改修した。しかし、石宮が寛永19年（1642）建立とあるから、江戸初期には既に伊勢神宮を勧請していたと思われる。境内に高井の公民館がある。

正法寺の輪廻塔

2 古代ロマンコース


JR群馬総社駅
文化財史跡案内板
元景寺
高井の神明宮
石田玄圭の墓
敷島公園
(総社)二子山古墳
光厳寺
薬医門
力田遺愛碑
総社小
宝塔山古墳
蛇穴山古墳
大渡橋
岩神の飛石
利根川
猿谷橋
関越自動車道
上越線
グリーンドーム前橋
山王廃寺
根巻石
(日枝神社)
石製鴟尾
元総社中
元総社北小
王山古墳
中央大橋
上野国分寺跡
宮鍋様
蒼海城跡
前橋警察署
総社神社
二十二夜様
徳蔵寺
天明の多宝塔
元総社小
群馬大橋
群馬銀行本店
NHK
利根橋
双体道祖神
群馬高専
大福寺
至高崎
国道17号線
元総社南小
JR新前橋駅
両毛線

山王廃寺周辺

総社神社本殿

・コース（約9㎞）

JR群馬総社駅 —600m— (総社)二子山古墳 —1,100m— 光厳寺 —1,500m— 山王廃寺 —1,500m— 国分寺跡 —1,800m— 宮鍋様 —400m— 総社神社 —1,600m— JR新前橋駅

・所要時間

・徒歩……5時間
・自転車……3時間

・概要と魅力

「総社・元総社歴史散歩道」の名称そのもののコース。総社・元総社地区の主要な史跡、文化財をほとんど見学できる。起点は、JR群馬総社駅でもJR新前橋駅でもよい。所要時間は、自転車を使えば半日で見学できるが、歩いて見て回るのは、余裕をみて一日とったほうがよい。

総社地区の国指定史跡宝塔山古墳等の古墳、総社城主秋元氏の菩提寺である光厳寺やこけし工場の見学。古代の栄華をしのばせる山王廃寺、国分寺跡の探訪。総社神社の本殿の美しさを堪能し、天狗岩用水、総社宿から山王附近を流れる五千石用水、山王地区の樫ぐね、赤城山・榛名山のすばらしい景観を味わうことができる。

参考 〔JR群馬総社駅～猿谷橋〕➡P.4～11参照

■山王地区・上野国分寺跡

卍光巌寺
宝塔山古墳
総社町総社
歩道橋の上から
榛名山の眺め
ビュー・ポイント
出口の
子育て地蔵尊
用水と堀の
景観よし
地蔵街道
天
狗
岩
用
水
かしぐね
日枝神社
卍
石製鴟尾
（都丸宅）
八幡川
山王の子育て地蔵尊
榛名山の眺め
ビュー・ポイント
山王廃寺
小栗上野介旧宅
（都丸宅）
牛
池
川
農道
（田畑の中を通る）
ビュー・ポイント
（榛名山）
赤城山の眺め良好
ビュー・ポイント
上野国分寺跡
卍（まほろばの地）
赤城・榛名・浅間・
妙義山が見わたせる
卍上野国分尼寺跡

地蔵街道（P.16）

出口の子育て地蔵尊から山王の子育て地蔵尊までの道には、多くの地蔵尊が祀られている。そこで、地蔵街道と名づけた。上越線の下をくぐり、天狗岩用水を渡り、八幡川を越えて五千石用水沿いに山王地区へ入る。道沿いの景観が素敵なので一度はゆっくり歩いてみたい所である。

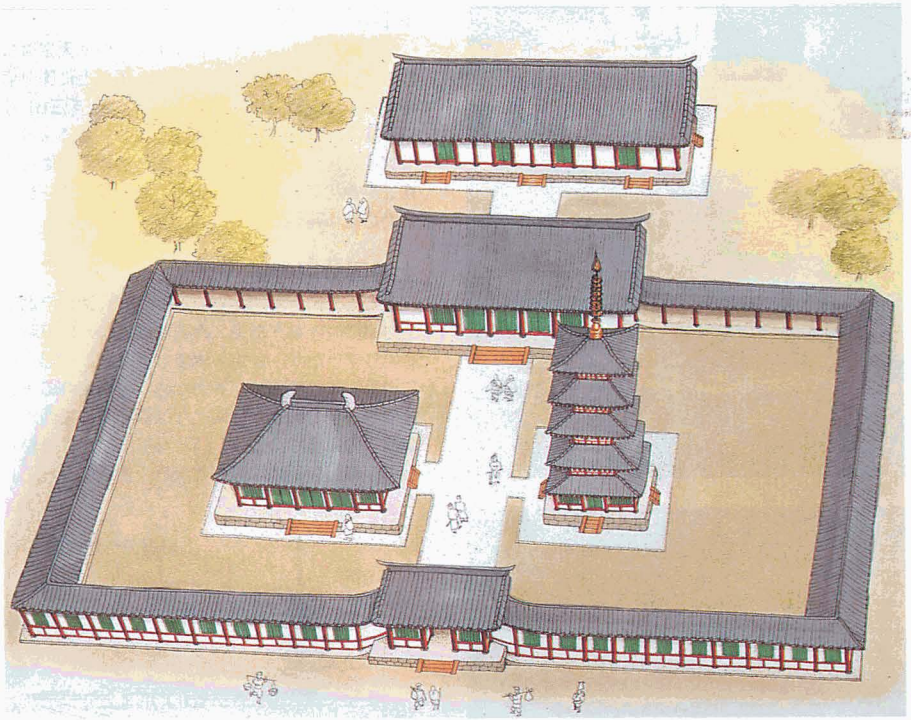
山王廃寺（P.16）

7世紀後半の白鳳時代に総社町山王地区に、壮大な寺院が建てられた。大正10年に初めて塔心礎（国指定史跡）が発見されて以来、寺の名前は地名を取って「山王廃寺」と名付けられてきた。しかし、最近では、「放光寺」・「放光」銘の文字瓦が検出されたことにより、山ノ上碑にある「放光寺」とも言われている。塔心礎のある日枝神社境内には、塔心柱根巻石、石製鴟尾などの日本で1つ2つしかない貴重な文化財が残されている。右の絵は当時の姿を再現した復原図である。

地蔵尊

山王地区の民家と樫ぐね（P.17）

「総社・元総社」のほとんどの町並みが近代化してきている中で、特に山王地区を歩くと、昔からの比較的大きな木造家屋（かつての養蚕農家）が残されており、趣のある農村景観を形成しているのに気づく。また、この地方の民家の特徴であるシラカシの高垣（樫ぐね）も多く残されているため景観的に素晴らしい。ちょっと写真を一枚といった雰囲気になる。



山王廃寺推定復原図

山王の百万遍

小栗上野介旧宅

上野国分寺跡

上野国分尼寺跡
から赤城山を望む

山王の百万遍（P.17）

百万遍とは百万遍念仏供養の略称。「ナンマイダ、ナンマイダ。（現在は、百万遍、百万遍）」と念仏を唱えながら、大きな数珠を操る行事で町や村への疫病等の侵入を防ぎ、無病息災を願い行われる。山王地区では、毎年７月16日、地区の長老の指導のもと、子供たちによって行われている。

小栗上野介旧宅（P.16）

江戸末期、幕府の勘定奉行だった小栗上野介が自宅とするため、倉渕村権田に造ったが、処刑後売りはらわれ総社に移築された家。木造総二階建で式台付、一階に20畳から６畳の部屋が11室という規模。総社の地は養蚕が盛んで、この建物は養蚕業を営むのにふさわしいものとして購入され、使用されてきた。今でも、都丸茂雄氏の居宅として使われている。

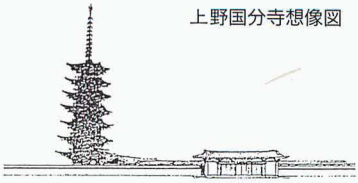
上野国分寺跡（P.16）

奈良時代の中頃、天平13年（741）聖武天皇は仏教により国家の安泰を図ろうと、国ごとに国分僧寺・尼寺を造らせた。上野国分寺は、上毛三山（赤城、榛名、妙義山）、上信越の山々が見えるまほろばの地に建立された。現在、国分僧寺跡には金堂跡と七重の塔跡の基壇が整備され、築垣の一部は当時の姿に再現されている。

上野国分尼寺跡（P.16）

上野国分僧寺東門から約300m東方、関越自動車道の東に尼寺跡がある。礎石はほとんど取り除かれてしまったが、金堂・講堂などの跡が確認されている。未発掘部分が多いため、寺域全体の確認はやや不明であるが、南北がほぼ２町、東西が２町以下のようである。（１町＝約109m）尼寺跡からの赤城山の眺めは最高であり、まさに「好処」と言える。

上野国分寺想像図

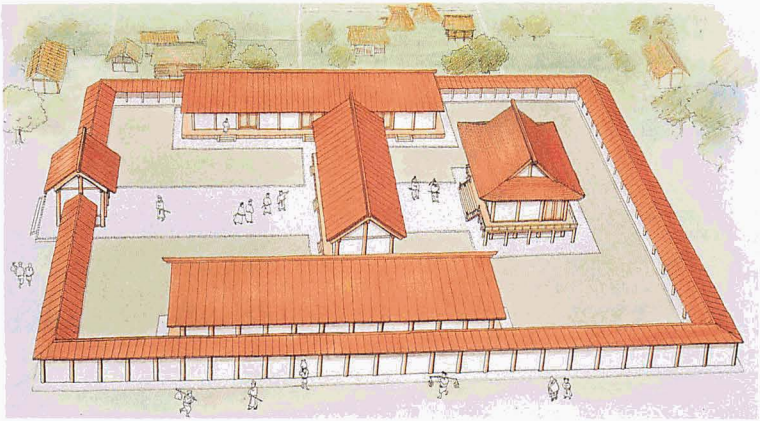


〔伝説〕化粧薬師（P.19）

蛇穴山古墳で蝦夷を撃退した大蛇は、その後、化粧薬師裏の風呂沼に現れ、河川、作物等に損害を与えた。里人は、その厄を逃れるため、妙齢の女を人身御供とした。この女こそ薬師の化身であるという。里人は、女の霊を慰めるためにお堂を建立、尊像を安置し、ねんごろな供養をしたという。化粧薬師を参拝すると、目の病気に効くという。

蒼海城跡（P.19）

15世紀前半、総社長尾氏は、戦乱の時代にこの地を守るために蒼海城を築いた。大きさは、上野国府を更に拡大し、西の染谷川、北の牛池川を外堀とした範囲。平地に築かれ城下町を持った城としては、上野国内最初といわれている。総社長尾氏の後、諏訪氏、秋元氏が居城したが、秋元氏が総社城を築いたため廃城となった。



上野国府「国庁」想像図

千庚申（御霊神社）

上野国府跡（こうずけこくふあと）（P.19）

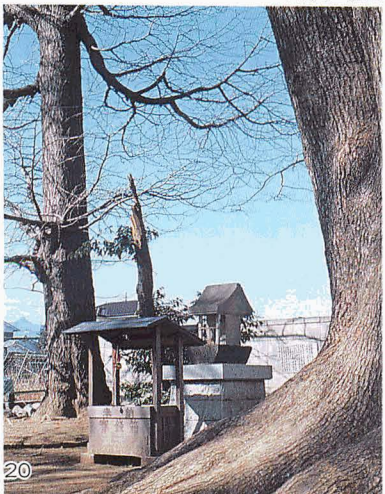
大化元年（645）の新政の発足により、各国に国府が設置された。上野国府は、総社神社、長谷（庁舎）、宮鍋（宮之辺）様、染谷川、御霊神社（学校院若御子明神）、国分寺跡などや、元総社小の校庭からは官衙と思われる建物跡が発見されていることから、現在の元総社の地にあったと推定される。規模は八町四方（約900m×900m）と考えられている。上の想像図はその中心となった「国庁」を表現している。

御霊神社（ごれいじんじゃ）（P.19）

上野国府の学問所（学校院若御子明神）のあった場所に、総社長尾氏が、鎌倉長尾郷より御霊宮を分霊して創立したものといわれる。総社長尾氏の氏神様。境内には、万延元年（1860）の庚申の年に、元総社村、大友村、石倉村から寄進された庚申塔が多数ある。

宮鍋様（みやなべさま）（P.19）

宮鍋様は宮之辺様ともいわれ、上野国府の国庁が近くにあったと思われる。永禄９年（1566年）に武田信玄によって蒼海城が落城するまで、総社神社があったとされる所。境内には石宮と双体道祖神などの石造物がある。シンボルとも言える大イチョウの木の下にベンチがあり、歴史散歩の途中一休みできる。



宮鍋様

総社神社（P.19）

総社・元総社の地名のもととなった総社神社は、上野国司が国府内の地に上野国内の神社を合祀したことに始まる。そのため、この神社の御神体は、549社の神名を記した「上野国神名帳」。本殿は江戸初期の桃山様式で、総社城主秋元氏により再建されたもの（昭和62年に解体修理復原を実施。県指定重要文化財）。その他に懸仏、雲版などが納められている。また、毎年１月６日には、水的の神事が行われ、１月14日から15日にかけては、農作物の作況占いの「筒粥」の神事、天候占いの「置炭」の神事（市指定重要無形民俗文化財）が行われる。３月15日に行われる「太々神楽」（市指定重要無形文化財）も有名。歴史散歩の拠点となる所で、境内にトイレもある。

筒粥・置炭の神事

総社神社想像復原図（江戸時代末期）

十王像（徳蔵寺）

〔伝説〕玉照姫と釈迦尊寺（P.19）

聖徳太子の乳母をつとめた玉照姫の夫は、大連の物部氏の一党、羽鳥連でしたが、蘇我氏により遠い上野国蒼海の里（今の元総社附近）に流され、妻と一人の子供をつれこの地に下ってきた。後にその孫の羊太夫が、祖母（玉照姫）が都にいたころ聖徳太子からいただいた釈迦如来像を祀るため、藤原鎌足の二男、定恵和尚とともに建立したのが、釈迦尊寺であるといわれている。羊太夫は、その後多胡郡をたてたと日本三碑の一つ多胡の碑に刻まれている。

徳蔵寺（P.19）

総社神社の南に境内を隣接して徳蔵寺がある。本堂前の参道には、不動明王などの石造物が配列されているが、その中の一つに十王像がある。十王様は、人が死んであの世に行く時、生きていた時の罪業を取り調べる冥界の裁判官。閻魔大王はその中の一人。十王像は、生前に成仏を祈願するために建てられたもの。市指定重要文化財の両界曼荼羅や懸仏がある。

八日市場城跡（P.19）

総社神社の東に牛池川を西堀とした単郭の小城があった。最近まで東側の堀跡が残っていたが、区画整理により消滅した。江戸初期に、総社城築城を企てた秋元長朝が、城ができて移るまで一時期住んでいた城といわれている。

昌楽寺（P.19）

平安時代以前の創建と伝えられるが、数度の火災により全く記録をとどめていない。山王の日枝神社には白鳳時代の寺院跡（山王廃寺）を示す塔の心礎があり、昌楽寺廻りの小字名があるので、この地にあった寺が昌楽寺の前身であろうか。林倉寺、観音寺などがその末寺。

釈迦尊寺（P.19）

総社神社の南方300m、元総社町にある曹洞宗の寺院。釈迦如来像を本尊にしているところからその寺名がついた。境内に、寺開基の伝説となっている羊太夫に係わる羽鳥連（一説には玉照姫）の墓がある。

JR新前橋駅（P.19）

前橋市古市町にあるJR上越線の駅。大正10年に開設され、昭和58年に高架事業の一環として橋上駅となった。元総社地区歴史散歩の起点となる所。駅の改札口を出ると、駅西口への歩道橋の表示がある。総社神社方面へは、この西口から向かうとよい。

ＪＲ新前橋駅

■元総社地区の その他の文化財

双体道祖神（P.14）

鳥羽町の群馬高専のわきに、像形のしっかりした双体道祖神が残っている。道祖神は、村の外から災いが入ることを防ぐ塞の神の信仰から生まれたもの。その昔、村境や峠、道の分岐点に建てられ、村人や旅人の安全を守った。江戸時代に盛んに作られ、信仰された。

双体道祖神

二十二夜様（P.19）

総社神社の西500m、県道足門・前橋線沿いに石造物群がある。その中の一つが、如意輪観音像を刻む二十二夜様である。江戸時代の農村の女の人にとって、特定の月の二十二日の夜に当番の家に集まり、ごちそうを食べながら念仏を唱える事は、楽しみの一つだった。二十二夜様は、この行事を行った人達によって建てられた。

大福寺の宝塔（P.14）

群馬高専の東に大福寺という天台宗の寺がある。その境内にある宝塔が、平成２年４月に前橋市の重要文化財に指定された。宝塔は、法華経にもとづいて建立された石造物で、現在前橋市内では89基が確認されている。大福寺の宝塔は、建立目的と応永25年（1418）の紀年銘があるため貴重なものとされている。

大福寺の宝塔

群馬社跡（P.19）

国道17号（高前バイパス）沿いにそびえ建つ群馬銀行の南側（元総社町）は、昭和２年に設立された「群馬社」の跡。県下の養蚕農家を組合員とした全国一の大規模組合製糸工場だったが、今ではそのおもかげは残っていない。

榛名山

総社・元総社地区から、北西方向に見える山が榛名山。上毛三山の一つで、典型的な複式活火山。火口に榛名湖がある。群馬県のほぼ中央に位置し、群馬郡・北群馬郡・吾妻郡にまたがる広い裾野をもつ。最高峰は外輪山掃部ケ岳で、1,448m。榛名湖の湖面標高は1,084m、周囲4.8km。湖畔には前橋市内から車で１時間半ほどで行ける。

榛名山

3 石造物コース

王守神社
利根川
上越線
山王廃寺(日枝神社)
根巻石
石製鴟尾
小間稲荷神社
元総社北小
元総社中
化粧薬師
王山古墳
宮鍋様
大友神社
神明宮
関越自動車道
蒼海城跡
元総社公民館
昌楽寺
林倉寺
前橋警察署
総社神社
徳蔵寺
元総社小
群馬銀行本店
NHK
前橋ステーション跡
釈迦尊寺
両毛線
元総社南小
国道17号線
至高崎
八坂神社
JR新前橋駅
赤烏神社

石製鴟尾

青面金剛像（神明宮）

・コース（約9km）

JR新前橋駅 —1,600m— 総社神社 —400m— 宮鍋様 —600m— 化粧薬師
| 900m　　| 1,000m
前橋ステーション跡　　山王廃寺
| 600m　　| 1,400m
林倉寺 —900m— 王山古墳 —800m— 大友神社　　丁間稲荷神社
| 700m

・所要時間

・徒歩…… 5時間
・自転車…… 3時間

・概要と魅力

元総社地区を一巡りし、石造物を中心に主要な史跡、文化財を見学するコース。拠点はＪＲ新前橋駅。所要時間は、徒歩なら半日強。自転車を使えば、半日でゆっくり回れる。

総社神社、山王廃寺、王山古墳と主要な史跡、文化財を見学しながら、様々な石造物を見ることができる。徳蔵寺の十王像、総社神社の双体道祖神、化粧薬師、山王廃寺の石製鴟尾、丁間稲荷神社の笠薬師塔婆、大友神社の二十二夜様、神明宮の百庚申、林倉寺の片腕地蔵、前橋ステーション跡の碑など、他にもたくさんある。昔の庶民信仰のあかしである石造物を訪ねて歴史散歩をしてみては。

参考　〔ＪＲ新前橋駅～山王廃寺〕➡Ｐ.14～23参照

■丁間稲荷神社・王山古墳周辺

笠薬師塔婆

二十二夜様（大友神社）

丁間稲荷神社（P.26）

慶長７年（1602）の総社藩主秋元長朝による天狗岩用水開削の時、京都の伏見稲荷を勧請し、境内に用水測量の基点丁間台をすえ、工事の安全と完成を祈願したのが始まり。ここには、市指定重要文化財「笠薬師塔婆」がある。

大友神社（P.26）

祭神は大懸命。上野国神名帳に「従三位大友明神」とあり東群馬郡にあったとされている。境内には、民衆の願いや祈りの表われとしての二十二夜様（如意輪観音）、庚申塔、馬頭尊、諏訪社、雷電社、秋葉神等の石造物がある。神社名は、国府に係わる職業集団、軍団と考えられる大伴に由来する。

長見寺（P.26）

大友町（字村内）にある寺、開基は総社長尾氏。本尊は不動明王を祀る。寺の位置は「大友館」と呼ばれる館址であり、総社長尾氏がいた所。寺内の長尾家墓地には、応永25年（1418）銘の五輪塔がある。その他の石造物も多い。

王守神社（P.24）

王山古墳西側の県道総社・石倉線を800m北へ上ると、前橋市第二工業団地の一角に王守神社がある。その昔、王様（大君）の一行がここを通りかかった所、奥方が産気づいたので仮の建物を作ってお産をした。その建物を神社にしたのが王守神社という伝承がある。安産のご利益があるといわれる。

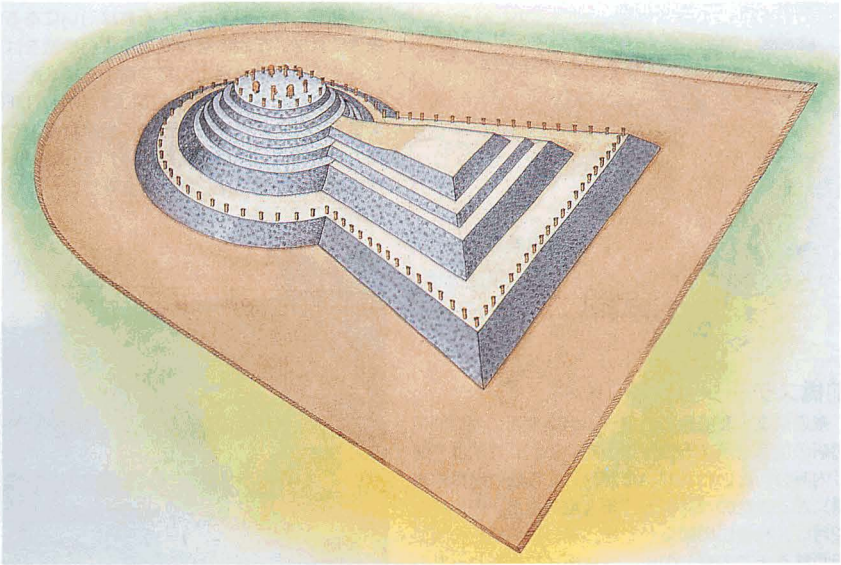
王山古墳（P.26）

6世紀前半に造られた墳丘約76mの前方後円墳。最初に円墳として後円部が造られ、後に前方部が造られた。後円部は内部まで人頭大の川原石で積まれた「積石塚」という大変珍しい造りをしている。狭くて長い羨道を持つ横穴式石室がある。現在は、墳丘全体が公園として利用されている。「積石塚」の様子は、一部墳丘が露出している所で、金網ごしに見ることができる。

上越線地下道（P.26）

大友地区と石倉地区を結ぶ県道前橋・群馬・高崎線のJR上越線との跨線橋の下には、歩行者・自転車専用の地下道がある。地下道は階段を伴う昼間でも暗い感じのものではなく、なだらかなスロープで上り下りするもの。大変歩きやすい。

王山古墳



王山古墳参考図

■石倉地区

前橋ステーション跡（P.28）

県道前橋・高崎線の石倉一丁目交差点の南に旧前橋駅の位置を示す石碑が建っている。石倉町は当時「内藤分」といわれていたが、ここに駅（前橋停車場）ができたのが、明治17年8月のこと。明治22年12月に、利根川の架橋ができ、現JR前橋駅の所に駅が移るまで内藤分の駅は生糸輸送でにぎわった。

石倉城跡（P.28）

石倉城は文明17年（1485）総社長尾氏が築城したという。橋山の麓より、当時今の広瀬川の左岸側を巾広く流れていた利根川の水を久留馬川という小流を利用して城の堀に引き入れたという。天正18年（1590）に豊臣勢の進攻により廃城となるまで、北関東の要として百有余年にわたり幾多の攻防と悽惨な流血の歴史をくり返した。現在は、変流した利根川の浸蝕を受けて主要部分が崩落して跡形もない。上石倉2号公園に記念碑が建てられている。

神明宮（P.28）

石倉町四丁目の上石倉公民館に隣接する神明宮には、百庚申が祀られている。人の体内にいる三尸の虫が、庚申の夜に天にのぼって天帝に罪過を告げ、生命をちぢめるという道教の教えのもとに、その夜は眠らずに語りあかす庚申待の行事が、江戸時代に庶民の間で流行し、さかんに庚申塔が造立された。神明宮の庚申塔は、文字庚申がほとんどだが、中には青面金剛像を彫った立派なものがある。

林倉寺（P.28）

神明宮の南、県道総社・石倉線沿いにある寺。境内にはは、伝説になっている片腕地蔵をはじめとした石造物群や冥土の裁判官十王様を祀っている十王堂がある。山門の入口には、明治11年明治天皇が前橋町へ行幸したとき、当時利根川には船橋の宇佐美橋しかなかったため、万一に備えこの林倉寺で衣を着替えられ小休止をしたが、その野立所跡の碑が建っている。

前橋ステーション跡

〔伝説〕兄妹道祖神（P.28）

江戸時代、美男美女をもって聞こえた二人の兄妹がいた。ある日、別個に配偶者を探すため近郷へ出かけたが、ようやく見つけた意中の人はなんと兄妹同志であった。かくして、二人は夫婦になったものの、村人は彼らを畜生夫婦といって相手にせず、村外へ放逐した。二人は淋しさのあまり、無心な子供を相手に生涯を終わったという。（神明宮）

〔伝説〕片腕地蔵（P.28）

去る年、大渡村に強盗が現れ、主人を傷つけようとした折、身代わりになって、片腕を犠牲にしたのがこの地蔵。災難を一身に引き受ける地蔵として、かつては信仰を集めた。身代り地蔵とも呼ばれている。林倉寺の十王堂西側に置かれている。

片腕地蔵

石倉地区の その他の文化財

菅原神社（P.28）

菅原神社は、学問の神、風水害や火雷避けの神などとして崇拝される菅原道真公を祭神とする。またの名を石倉の天神様という。社殿は、前橋藩主松平大和守直侯が建立した紅雲町にあった赤城神社を譲り受けたもの。

平成大橋（P.28）

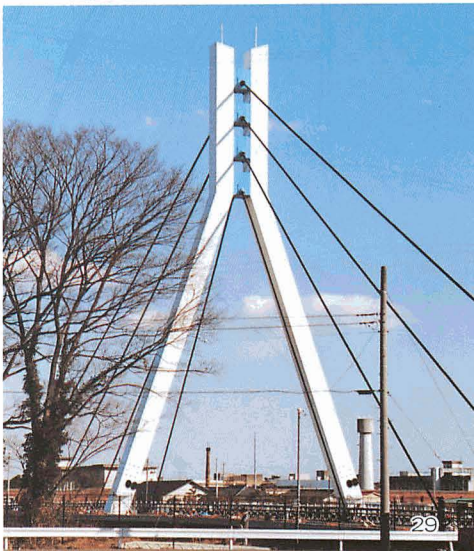
平成３年４月に開通。長さ215m、幅22.8mで、高さ45mの柱をもつ市内で初めての斜張橋。対岸の赤レンガの塀（前橋刑務所）との景観がよく、前橋の新名所といえる。

瑠璃光薬師（P.28）

菅原神社東の道路はたの小さなお堂に、瑠璃光薬師といわれる小さな薬師様が祀られている。薬師様は、昔から病気にご利益があると信仰されてきたが、ここの薬師様にはいつもお供え物が絶えない。きっと効き目があるのだろう。

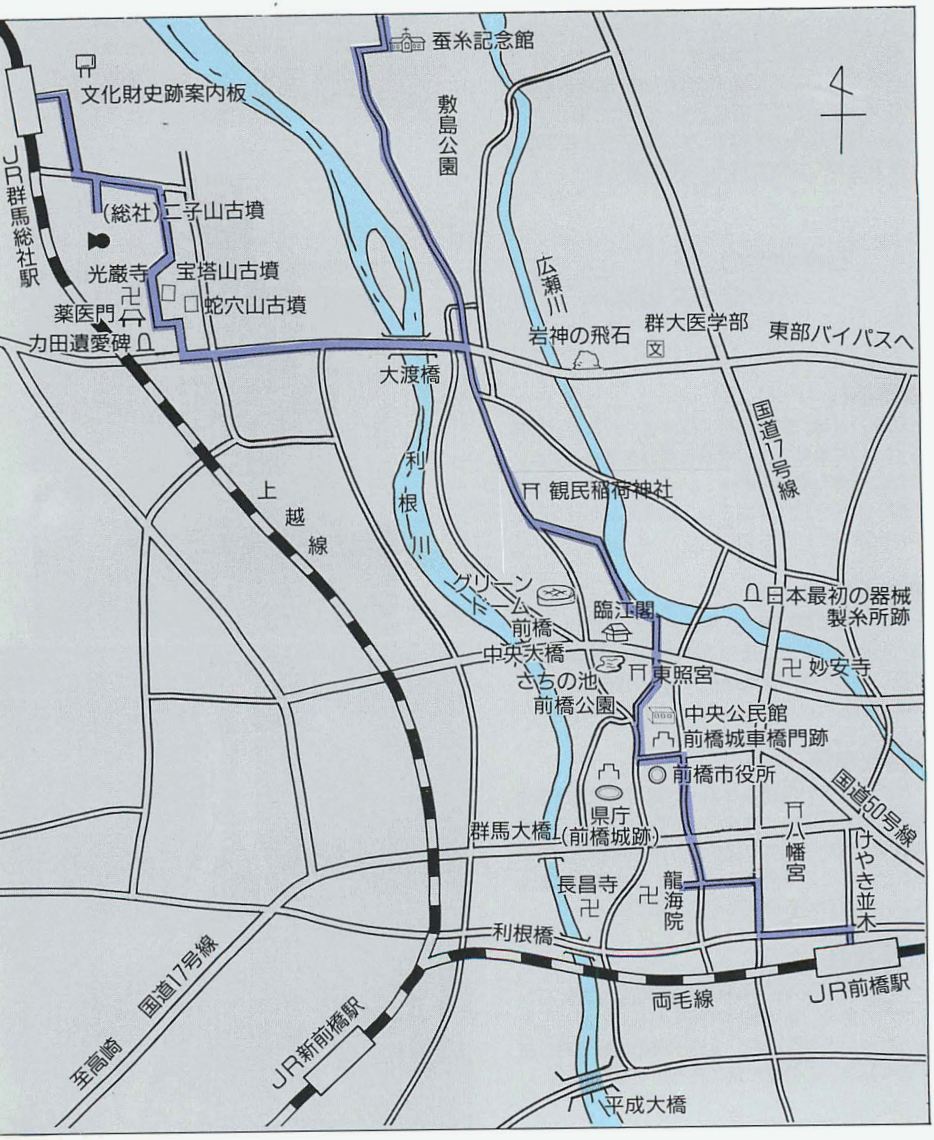
赤烏神社（P.24）

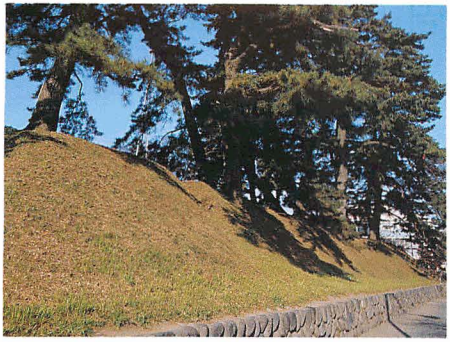
古代には、都の南に朱雀を祀る習わしがあった。朱は赤であり、雀は祭神の関係から烏となり、赤烏となったと考えられ、上野国府の朱雀大路にあたる南側に、この社が建てられたと思われる。



平成大橋

4 利根のかけ橋コース


蚕糸記念館
文化財史跡案内板
敷島公園
JR群馬総社駅
(総社)二子山古墳
光厳寺
宝塔山古墳
薬医門
蛇穴山古墳
力田遺愛碑
広瀬川
岩神の飛石
群大医学部
東部バイパスへ
大渡橋
国道17号線
利根川
観民稲荷神社
上越線
グリーンドーム前橋
臨江閣
日本最初の器械製糸所跡
中央大橋
さちの池
東照宮
妙安寺
前橋公園
中央公民館
前橋城車橋門跡
前橋市役所
国道50号線
県庁(前橋城跡)
群馬大橋
八幡宮
けやき並木
長昌寺
龍海院
利根橋
両毛線
JR前橋駅
JR新前橋駅
至高崎
国道17号線
平成大橋



前橋城土塁

臨江閣別館

・コース（約11km）

JR前橋駅 —1,200m— 龍海院 —1,400m— 前橋城跡 —500m— 臨江閣 —870m— 観民稲荷神社 —2,100m— 敷島公園 —2,700m— 光厳寺 —1,100m— 〔総社〕三子山古墳 —600m— JR群馬総社駅

・所要時間

・徒歩……5時間30分

・自転車……3時間30分

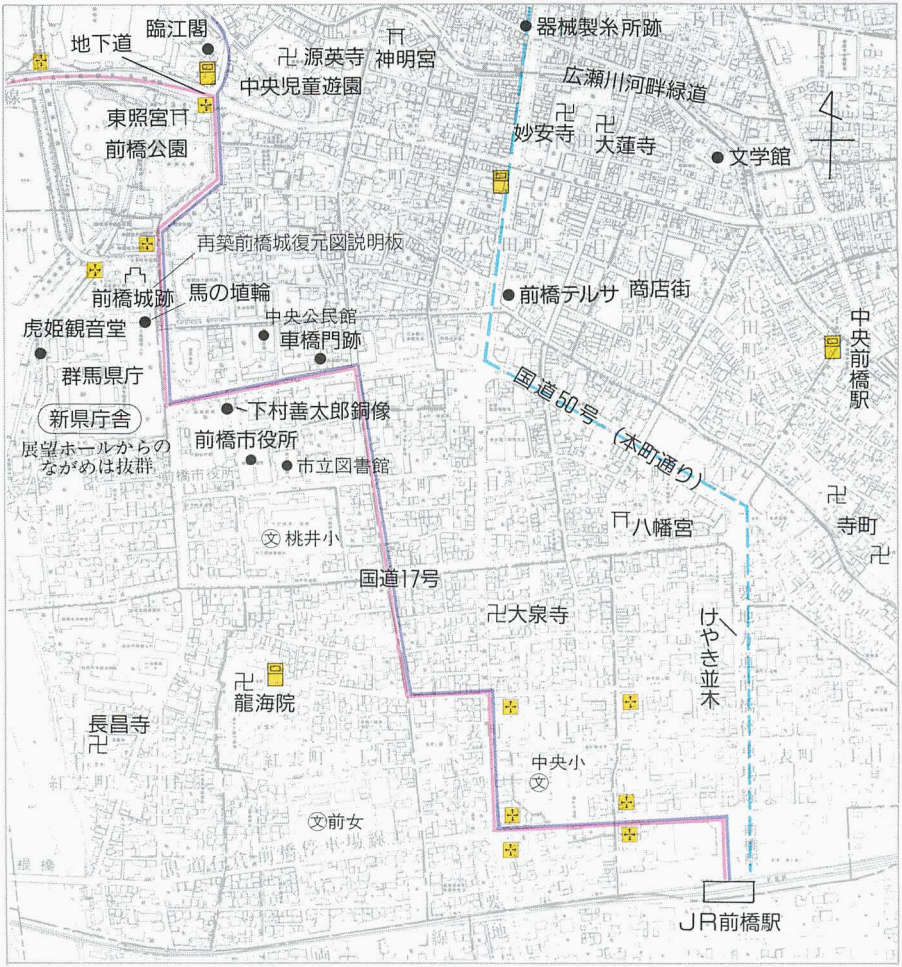
・概要と魅力

前橋の中央地区と総社地区の史跡、文化財を訪ねるコース。途中、敷島公園の見学もできる。全部見て回ると、総延長約11kmとなり、健脚向きである。所要時間は、自転車なら半日のコースだが、見学場所が多いので、余裕をみて一日コースとしたい。徒歩で見学の場合は、丸一日の充分な時間がほしい。起点はＪＲ前橋駅とＪＲ群馬総社駅。

このコースには、前橋市内の有名な史跡、名所、文化財がほとんど入っている。主なものを挙げると、中央地区には龍海院・前橋城跡・臨江閣・グリーンドーム前橋があり、敷島地区にはばら園・蚕糸記念館・朔太郎記念館・岩神の飛石があり、また総社地区には蛇穴山古墳・光厳寺・天狗岩用水がある。とにかく見学できるものが数多くあるコース。テーマや地域をしぼって見て巡るのも一つの方法。

参考 〔蛇穴山古墳～ＪＲ群馬総社駅〕➡Ｐ．4～11参照

■JR前橋駅・群馬県庁周辺



JR前橋駅（P.32）

昭和62年10月に両毛線高架事業が完了し、新たに南口が設置されたJR前橋駅は、市内中央地区を通って総社・元総社地区へ歴史散歩する起点である。北口駅前には、史跡文化財の案内板や駅からの路線バスの発着所がある。

けやき並木（P.32）

前橋駅の北口に降りると、けやき並木が正面に写る。春の新緑、夏の涼しげな木かげ。そして秋の風にすっかり枯葉が舞い落ちると、やがて冬。けやき並木は鏡のように前橋の季節を写し出す。ぜひ一度散歩してみたい並木路。

龍海院（P.32）

前橋藩主酒井氏の菩提寺で、酒井重忠が厩橋（後に前橋）藩主になった際に川越から移された。境内には酒井氏歴代墓地（市指定史跡）がある。初代重忠から15代までと一族の墓、合計20基があり、酒井氏の当時の権勢をしのばせる。

長昌寺（P.32）

長昌寺は、延徳元年（1489）厩橋城主長野氏の位牌所として開山したとされる。開基は長野万業。戦国時代には織田信長の家臣瀧川一益が能を催したとの記録もある。境内に市指定史跡「本城氏の墓」がある。

八幡宮（P.32）

貞観元年（859）の創建と伝えられる。厩橋城主の北条、平岩、酒井氏の崇敬あつく、前橋が商都として発展するに伴い一般の尊敬をも集め、前橋総鎮守としてあがめられてきた。特に「子育て八幡」として知られ、11月15日の七五三祭はにぎわう。

寺町（P.32）

厩橋藩主となった酒井氏は、厩橋城の外郭に、城の防衛上から出丸のような意味をもたせて、要所要所に寺院を配置した。城の東方、旧江戸道に沿って、明闇寺、東福寺、隆興寺、養行寺、正幸寺、松竹院などの寺院が並んでいた。

初市（P.32）

1月9日は前橋初市まつり。街が熱気につつまれる。市の中心部本町通りなどは歩行者天国となり、「ダルマ」など1000店を超える露店が軒をつらねる。夜には一層のにぎわいをみせる。江戸時代からの伝統のある「市」。

前橋まつり（P.32）

前橋まつりは、毎年10月の第2土・日曜日に前橋市民総参加の祭りとして市の中心部で開催される。鼓笛行進、吹奏パレードや山車、神輿、民謡流しなどの催しが、多くの見学客や買物客を楽しませてくれる。

ＪＲ前橋駅とけやき並木

酒井氏歴代墓地

〔伝説〕初夢と龍海院（P.32）

享禄3年（1530）の春正月1日、徳川家康の祖父清康は〝是〟という字を握る夢をみた。岡崎の高僧、模外和尚は、是の字を分けて、「日」の「下」の「人」と解き、清康かまたは子孫が天下を掌握すると占った。清康はたいへん喜び、お礼に寺を建て、模外和尚を開山始祖とした。この寺が、龍海院是字寺。その後、清康は、寺を家臣の酒井氏に預けたので、龍海院が前橋藩主酒井氏の菩提寺になったという。

前橋城車橋門跡

文化財展示室

〔伝説〕前橋城と古狸 (P.32)

時は永禄10年（1567）10月6日、厩橋（前橋）城には上杉謙信がいた。これを攻める北条氏康軍は三万余、武田信玄の軍勢は二万余。上杉方は、次第に苦戦に陥り、あわや落城の運命となった。そのとき、闇の中からおびただしい人数が、敵軍に襲いかかり、形勢が逆転。上杉方は城を守った。この時に味方をしたのが、長年城中に住んでいた狸たちだったという。

前橋城車橋門跡 (P.32)

車橋門は、前橋城の外曲輪と内曲輪を結ぶ大手筋にあって、数ある城門の中でも、特に重要な門だった。高さ1.4mの基壇を残す車橋門跡は、現存する前橋城の数少ない遺構の一つだが、西側の基壇は8m北東に動いている。市指定史跡。中央公民館の東にある。

前橋市中央公民館（文化財展示室）(P.32)

前橋市中央公民館の1階南側は、前橋の歴史の概要を紹介した文化財展示室になっている。原始古代から中世にかけては、市内から出土した埋蔵文化財を中心とした展示がなされ、近世近代では、絵図や模型等で説明がなされている。また、市内の指定文化財の位置を紹介した電気表示のパネルもある。

群馬県庁 (P.32)

群馬県庁は、旧前橋城の三の丸、再築前橋城の本丸のあった所に建っている。正面の県庁昭和庁舎（登録文化財）は、昭和3年4月に建築された鉄筋コンクリート造、昭和初期の典型的洋風建造物である。前橋市役所駐車場前に建つ初代市長下村善太郎の立像を見ながら、県庁前から前橋公園へ向かうのは絶好の散策コース。

前橋（厩橋）城跡 (P.32)

前橋には、かつて徳川家康より「関東の華」と言われたという名城前橋城があった。その築城は古く、15世紀末、長野氏によるとされている。城の中心は現在の群馬県庁のある所。県庁北東の土塁は城の遺構の一つ。土塁上に前橋城址の碑が建っている。

前橋市役所 (P.32)

明治25年4月1日に県下で一番早く市制施行した前橋市は、群馬県の県庁所在地。現在の市役所庁舎は、昭和56年に建てられたもの。市庁舎12階からの展望はすばらしく、総社・元総社地区をはじめ、市内を一望できる。また、市役所周辺には、群馬県庁、前橋地方裁判所、前橋地方検察庁、群馬県労働基準局、前橋合同庁舎などが建ち並び、官庁街を形成している。

前橋城天守閣想像復原図（生松秀樹氏寄贈）

前橋城想像復原図（江戸時代初期）

能装束（東照宮）

東照宮（P.32）

寛永元年（1624）徳川家康の孫、松平大和守直基が、越前国勝山城主となった時、祭祀したのが始まり。以来各地に移封されるたびに奉遷した。現在地に（旧前橋城の一郭）社殿を造営したのは、明治４年（1871）。境内には、菅原神社、営築稲荷神社、厩橋護国神社も祀られている。前橋藩主松平氏より賜った能装束一式等が、市指定重要文化財になっている。

前橋公園（P.32）

江戸末期に再築された前橋城の一郭を利用した市内で初めての公園、利根川のすぐ近くに立地し、さちの池や野外ステージ、市民広場、臨江閣（県・市指定重要文化財）、中央児童遊園などがある。春の桜見物等、四季を通じて楽しめるところ。

臨江閣本館

中央児童遊園（P.32）

古くは、古利根川の流路だった所をせき止めて前橋城の水堀とした所。その後、水をぬいて空堀となり、明治時代は、赤城牧場として使われていた。大正10年に市で買収して公園の一部となった。現在の児童遊園が開園したのが、昭和29年９月。それ以来、子供たちの遊園地として家族連れでにぎわっている。

酒井重忠画像

臨江閣（P.32）

臨江閣の本館、別館、茶室とも、明治期の木造建造物として文化財的価値が高い。本館は、明治17年（1884）、時の県令揖取素彦のすすめにより、迎賓館として建てられた。茶室も同じ年にできたもの。この二つの建物は、平成２年に解体復原したばかり。建物内の見学が可能。
別館は、明治43年（1910）に建てられた。今でも社会教育施設として利用されている。

源英寺（P.32）

源英寺は、前橋城主酒井重忠のおくりな傑叟源英をとり、重忠の子忠世が元和３年（1617）に創建した。重忠の葬儀の導師であった龍海院８世興厳春隆和尚が隠居して、源英寺の初代住職になった。寺宝には市指定重要文化財「酒井重忠画像」がある。

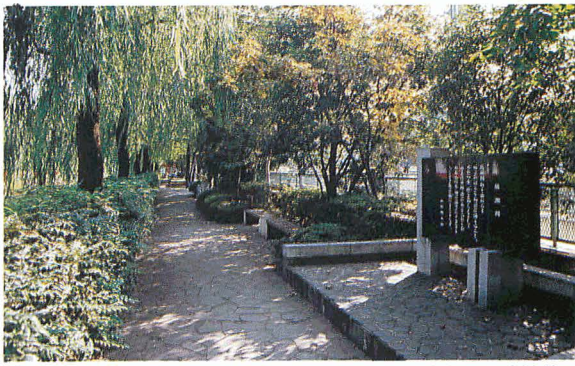
虎姫観音堂（P.32）

前橋城主は、たか狩りに行った時に見そめた"お虎"という侍女をかわいがった。女中たちはこれをねたみ、お虎が給仕番のとき、城主のお椀に針を入れた。城主は怒り、無実のお虎を裸のまま蛇や百足といっしょに大がめに入れ、利根川の淵に沈めた。その後、前橋城が川欠にあうのは、そのお虎の恨みによるという。虎姫観音堂は、お虎と観音様を祀っている。

虎姫観音堂

広瀬川河畔緑道（P.32）

街の中心を北西から南東へとうとうと流れているのが広瀬川。その清流にマッチした河畔緑道が、川沿いに1.2km続いている。春にはつつじの花。夏には、柳並木が涼しさをかもし出す。萩原朔太郎や伊藤信吉らの詩碑やモニュメントが趣をそえ、散策するにも、詩情にふけるのにもよい小道。



広瀬川河畔緑道

妙安寺（P.32）

親鸞の弟子成然が下総国（現茨城県）に創建。江戸初期に前橋藩主酒井氏により前橋へ移る。この寺にあった親鸞上人自作の木像が、東本願寺創建のとき、本山へ移ったので、以後、御里御坊として特別の寺格をもっている。梵鐘をはじめ、国認定、県・市指定の数々の宝物を所蔵している。

日本最初の器械製糸所跡（P.32）

糸のまち前橋の象徴がこの製糸所跡。明治３年、前橋藩士深沢雄象と速水堅曹は、スイス人技師ミューラーを招いてイタリア式器械12基を購入、細ケ沢町（現住吉町一丁目）に設置した。これが全国初の洋式器械製糸業前橋製糸所で、官営富岡製糸場に先立つこと２年６か月前だった。

器械製糸所跡

商店街（P.32）

前橋市役所周辺の官庁街に対して、千代田町二～五丁目一帯は、２店舗のデパートを核に中央通り、銀座通り、立川町通り、オリオン通り、弁天通りなどの大商店街を形成する。前橋の三大祭り（初市、七夕、前橋まつり）はここを中心に開催され、毎年多くの買物客、見学客でにぎわう。

■前橋公園・大渡橋周辺

風呂川（P.38）

敷島公園県営陸上競技場東の県企業局小出発電所から分水し、岩神小学校西側、臨江閣裏の土手、中央児童遊園横を流れて前橋台地に至る用水。厩橋城築城の際、城の防備や防火をはじめ、城下の生活用水を兼ねて造られたという。上杉謙信が入城の際に入浴に使ったという伝説から風呂川の名がついたといわれる。

風呂川

グリーンドーム前橋（P.38）

グリーンドームは、地上6階、地下1階のビッグな建物。収容人員2万人、イベントエリア5,000㎡、見本市、展示会、スポーツ大会、コンサート等が開かれる。大屋根の張弦梁は世界最大。平成2年8月、世界自転車選手権を開催し、オープンした。前橋の世界に誇る新しい顔。

グリーンドーム前橋

大渡の関所跡（P.38）

大渡の関所は、江戸時代利根川に設置された重要な関所。場所は、現在の岩神町（前橋工業高校の南）で、西上州と東上州の交通の要地にあった。西上州には中山道があり、江戸と直結していたので、この関所では、江戸方面に入る「入鉄砲」と前橋へ出てくる「出女」を中心に通行を取締まった。

万代橋（P.38）

安政５年（1858）大工永井長治郎（赤城村上三原田の回り舞台を造った人）らの手によって万代まで続く橋として造られた。場所は、大渡の関所の所。川の両岸の脚から中央に板を伸ばしてつないだ「はね橋」として、錦絵にもなったが、５年後に洪水により流出した。

観民稲荷神社（P.38）

観民稲荷神社は、慶長６年（1601）酒井河内守重忠が、厩橋城主となったとき、城内風呂川の改修にあたって、その守護神として祀ったものといわれている。〝観民〟のいわれは、ここに殿様がよくこられ、民を観たことから〝観民〟となったとのこと。

岩神の飛石（P.38）

大渡橋の東500m、旧沼田街道沿いに、国指定の天然記念物「岩神の飛石」がある。周囲約70m、地上の高さ約10mもの巨石。24,000年も昔に赤城山中から流されて来たもので、まわりの地質に関係なくポツンとあるので飛石と呼ばれる。一見の価値がある。

大渡橋（P.40，42）

県道前橋・群馬・高崎線が利根川をまたぐところに架けられている橋。岩神町と総社町を結ぶ。現在の地点に最初架けられたのは、大正10年（1921）。その昔は、橋の南に「大渡の渡し」があった。橋の両側が歩道、自転車道となっており、そこから遠くの山々の眺望がすばらしい。

花火大会（P.38）

前橋の花火大会は、毎年８月15日に利根川の河川敷を利用して行われる。花火が夏の夜を彩り、足元に地響が伝わる。見物客が思わず息をのむ華やかさがある。圧巻は、大渡橋に仕掛けられるナイヤガラの滝。夜店や売店も多数出る真夏の大きなイベント。

岩神の飛石

〔伝説〕岩神の飛石（P.38）

あるとき、石工たちが相談して、この岩を割り石材にしようとした。一人の石工が岩にノミを打ち込むと、岩から真っ赤な血が吹き出し、石工の手はしびれ、ついに死んでしまった。土地の人は、このことを知って神のたたりと信じ、岩を恐れ、ここに神社を建てた。これが飛石稲荷であり、「岩神」の地名もここから出たという。

〔伝説〕義経と静御前（P.38）

兄頼朝に追われて、奥州へ逃げていった源義経のあとを追ってきたのが、静御前。ようやく、大渡にたどりつくことができたが、旅の疲れと義経を思う心の疲れから、どっと病の床に臥す身となり、一人この地で息をひきとった。その時、看病してくれた人に「静」という姓をおくったという。観民稲荷の北200mに「静さま」と呼ばれる墓がある。

花火大会

■敷島公園

敷島公園（P.40）

利根川と広瀬川にはさまれた前橋が誇る広大（36.3ha）な公園。園内には、ばら園、松林、各種運動施設があり、国体のメイン会場にもなった。いろいろなイベントが組まれ、四季を通して訪れる人が多い。公園の観光情報は、観光連盟へ。
（Tel027―233―3633）

松林（P.40）

敷島公園には、約3,000本もの松の木が立ち並んでいる。平地にこれだけ多くのクロマツが群生しているのは、全国でも珍しい。松林の南にある慈光池を伝わって吹き抜ける風はやさしく、林の中を散策してみたくなる。

松林

水道資料館（P.40）

水道資料館は、給水開始（昭和４年３月）60周年を記念して、平成元年に前橋市の水道発祥の地である、敷島浄水場の旧管理事務所を改修し、オープンした。開館は、水曜日から日曜日までの午前10時から午後４時まで。入館料は無料。東側に駐車場もある。近くにある配水塔との景観がすばらしい。水道資料館と配水塔は登録文化財。

水道資料館

ばら園（P.40）

敷島公園内にあり、開花期の5月中旬から6月上旬には、ばら園まつりが行われ、たくさんの人でにぎわう。200種2000株を越えるばらの花は、赤、白、ピンク、黄色など、色とりどりに咲きほこり、美しさを競い合う。また、11月上旬には菊花まつりもある。その他、園内には、熱帯温室、日本庭園もあり、四季折々の美しい花々を観賞することができる。入園は無料、休園日は火曜日と年末年始。

ばら園

熱帯温室（P.40）

ばら園内にある熱帯温室は、サボテン温室、大温室の2つの八角形をしたガラス張りドームと回廊展示室からなっている。約724㎡の室内では、ヤシ、ラン、サボテンなど約550種、2,900本の熱帯植物が観賞できて、南国ムードもいっぱい。開館は午前9時～午後4時、火曜日と年末年始が休館。入館無料。

前橋市蚕糸記念館

前橋市蚕糸記念館（P.40）

明治45年に建てられた国立原蚕種製造所前橋支所本館をばら園内に移築したもの。当時は、蚕糸改良の研究や指導者の養成などを行い、群馬県は日本一の養蚕県となった。今は館内に養蚕から製糸に至るまでの道具、蚕糸試験場や養蚕信仰の資料などを展示している。明治末期の代表的な洋風木造建造物として貴重。県重要文化財。入館無料。開館日は4月～11月は土・日・祝日（ばらの開花期日火曜を除く連日開館）

朔太郎記念館（P.40）

前橋が生んだ全国的に有名な詩人朔太郎の生家から土蔵、書斎、離れ座敷をばら園内に移築し、展示公開している。館内には、朔太郎の写真パネル、色紙、ノート、日誌などの複製と、年譜、初版本の復刻版などが展示してある。休館日は火曜日と年末年始で、入館無料。開館は午前9時～午後4時。

〔伝説〕お艶が岩（P.40）

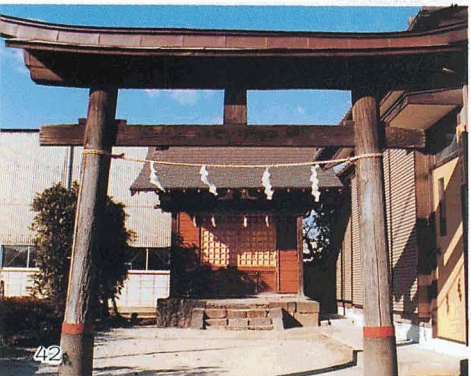
敷島球場の隣の池にある大きな岩が、お艶が岩。昔、利根川はこのあたりを流れていた。この岩に悲しい伝説が二つある。

利根川の東の村にお艶という美しい娘がいた。いつしか対岸の村の青年と恋仲になったが、向こう岸の青年の気持はしだいにさめ、秋風とともに青年は、パッタリと姿を現さなくなった。嘆き悲しんだお艶は、来る日も来る日も川原へ出て青年を待っていたが、とうとうある日、この岩の上から利根の激流に身を投じたという。

二つ目は、豊臣秀吉の妻淀君が世をはかなんで、こちらもこの岩の上から身を投じたという話。

■巣烏神社周辺

山賀家レンガ蔵


巣烏神社

大渡橋西詰（バス停）（P.42）

前橋駅から総社町方面の路線バスは、群馬バス・日本中央バスを利用する。歴史散歩の起点となるバス停は「大渡橋西詰」。その名のとおり、大渡橋のすぐ西にある。バスに乗ると前橋駅まで20分ほどで行ける。その他の総社・元総社地区のバス路線は51頁を参照。

山賀家レンガ蔵（P.42）

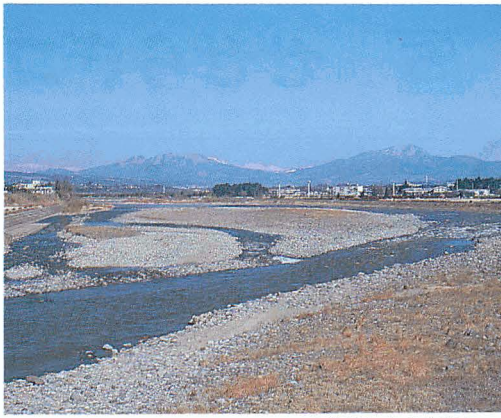
山賀家の屋号は田中屋。「二子山」と「山瀬川」の銘柄で明治始めから昭和45年まで酒造りをしていた。最盛期は大正末期頃で、年間約千石（1升ビンで10万本）ほどの酒を造った。レンガ蔵は、北海道庁の庁舎を模して、昭和2年に建てたという。

巣烏神社（P.42）

元は、赤烏神社とならんで元総社の巣烏分にあり、国府の鎮め神として設置されていたという。総社城築城に伴い、その地の人々が慶長年間に総社町へ移住した際、一時総社神社境内に移宮されたが、その後、新居住地の鎮守とするため現在地へ奉遷したという。境内には、八坂社、疱瘡神、菅原社などがある。

総社城南木戸跡（P.42）

秋元長朝は慶長12年（1607）総社城を築城し城主となり、二代泰朝まで約30年間この地を支配した。佐渡街道で総社城下を通行する際、城下町の入口にあった南木戸は午前６時に開門され、午後６時に閉門されたと伝えられる。大正時代までは、南木戸として使われた石積の跡が左右に残っていたが、今は、県道総社・石倉線のわきの歩道の植込みに南木戸跡を示す石碑が建っているだけである。



大渡橋から北を望む

野馬の不動尊（P.42）

不動尊は、元来密教の信者が尊崇し、真言宗寺院などに多い。野馬の不動尊は、この地の密教信徒により奉納されたものであろう。不動尊は江戸時代の作で、毎年１月28日を縁日としている。その他境内には、明治末年の社寺合併で集められた天満宮（子供の守り神）、秋葉様（火防の神）などが祀られている。

野馬塚神明宮

野馬塚神明宮（P.42）

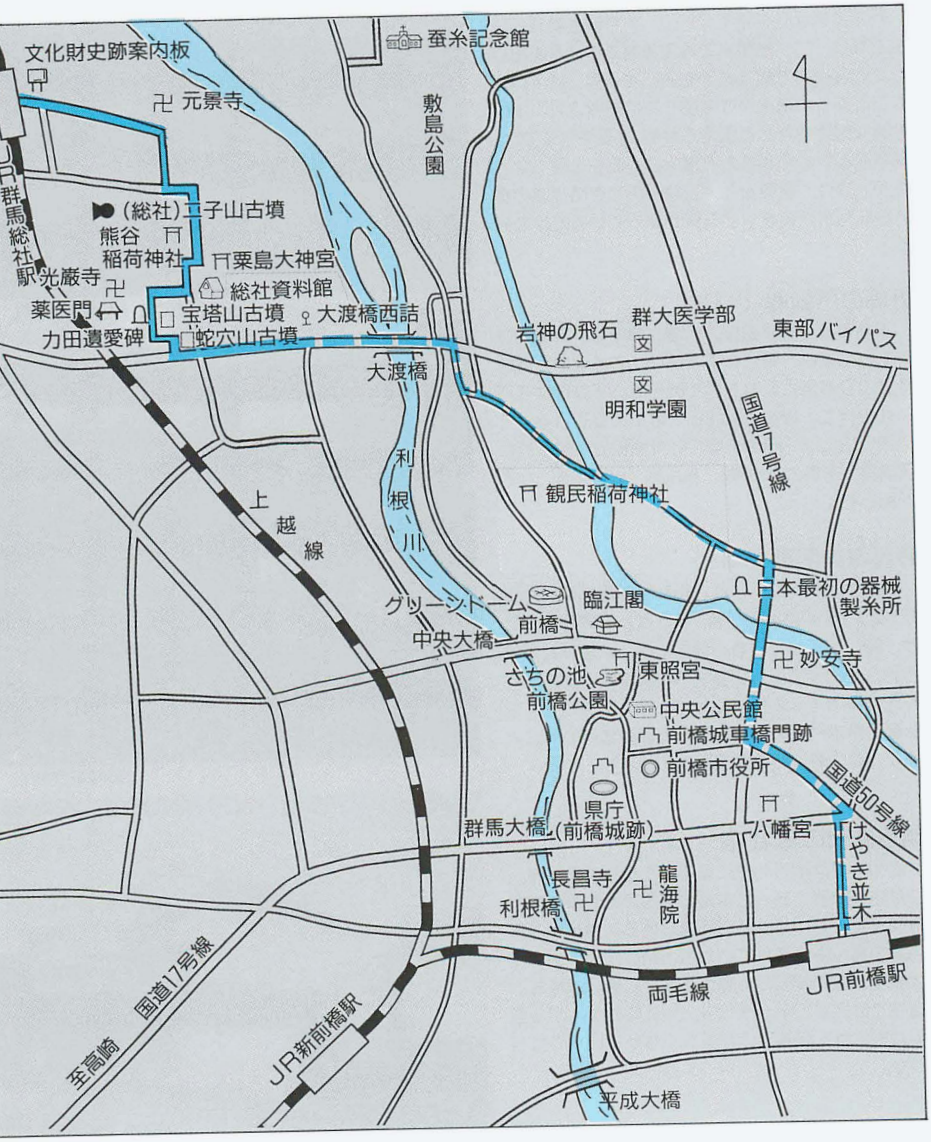
野馬は馬塚ともいわれ、総社城の南木戸の外にあった。神明宮は野馬塚の鎮守として建立されたが、時代は不詳である。境内には、八坂神社が祀られ、その他珍らしい道祖神と庚申塔がある。野馬塚の神明宮へ参拝するためには、県道総社・石倉線の南木戸跡の南にある自転車屋の所で東に入るが、この道は旧佐渡街道である。

明治時代の総社宿（P.42）

右の写真は明治40年に撮影した総社宿の写真。江戸時代問屋であった巣烏の福田家と佐渡街道の様子が写っている。この写真にある江戸時代から街道の真ん中を流れていた用水路は、第二次世界大戦後、道路舗装のため消滅した。その道路も、現在では拡幅工事が進行中。総社町もだんだん昔のおもかげを残すものが少なくなっていくのだろうか。

明治時代の総社宿

5 せせらぎコース


文化財史跡案内板
元景寺
蚕糸記念館
敷島公園
JR群馬総社駅
(総社)二子山古墳
熊谷稲荷神社
栗島大神宮
光巌寺
総社資料館
薬医門
宝塔山古墳
大渡橋西詰
力田遺愛碑
蛇穴山古墳
岩神の飛石
群大医学部
東部バイパス
大渡橋
明和学園
国道17号線
利根川
上越線
観民稲荷神社
本最初の器械製糸所
グリーンドーム
臨江閣
前橋
中央大橋
妙安寺
さちの池
東照宮
前橋公園
中央公民館
前橋城車橋門跡
前橋市役所
国道50号線
県庁
(前橋城跡)
群馬大橋
八幡宮
けやき並木
長昌寺
龍海院
利根橋
JR前橋駅
両毛線
至高崎
国道17号線
JR新前橋駅
平成大橋

宝塔山古墳石室

熊谷稲荷神社

・コース（約8㎞、うちバス約5㎞）

JR群馬総社駅 ―800m― 元景寺 ―500m― 熊谷稲荷神社 ―200m― 粟島大神宮 ―50m― 総社資料館 ―400m― 光厳寺 ―50m― 宝塔山古墳 ―200m― 蛇穴山古墳 ―600m― 大渡橋西詰 ＝（バス）＝ JR前橋駅

・所要時間

・徒歩（ＪＲ群馬総社駅―大渡橋西詰）……２時間30分
・バス（大渡橋西詰―ＪＲ前橋駅）……20分

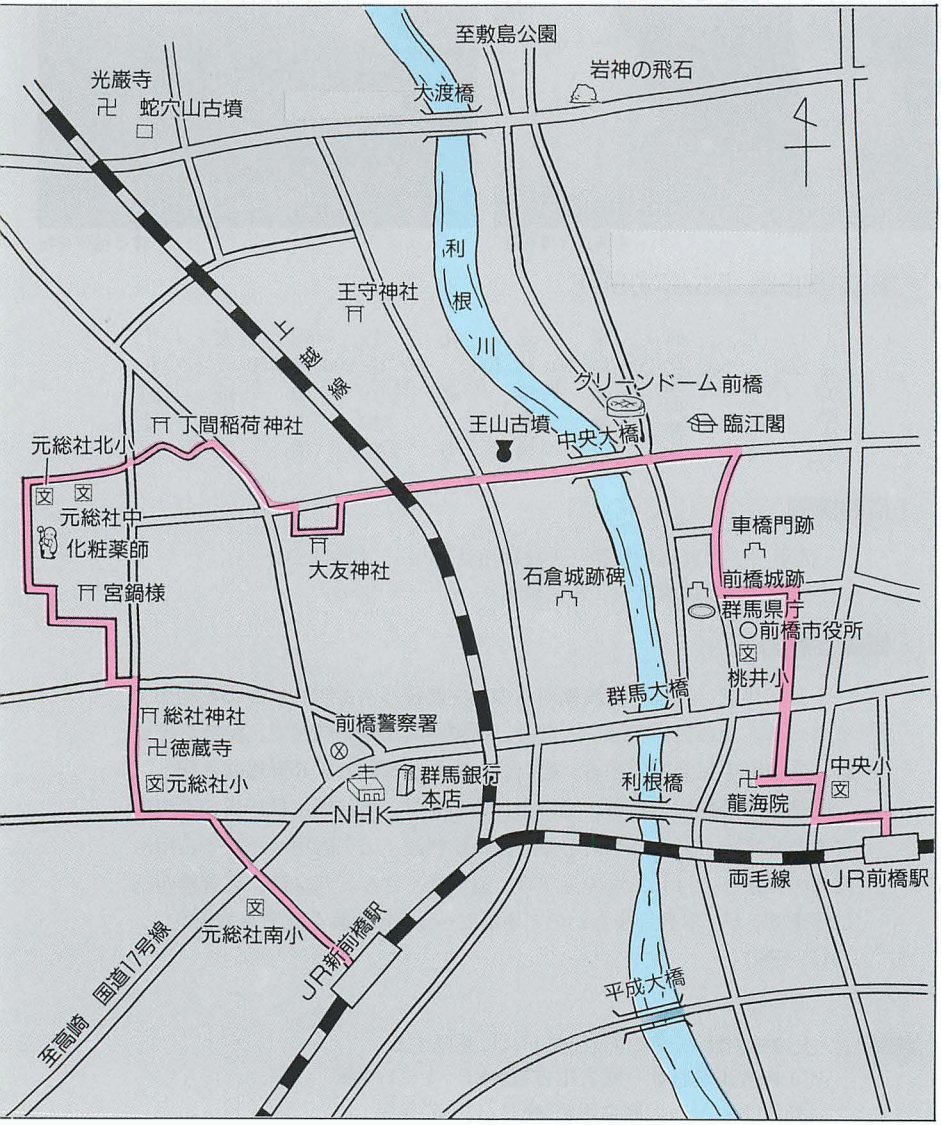
・概要と魅力

ＪＲ前橋駅と総社町大渡橋西詰の間を路線バス（群馬バス・日本中央バス）を利用するコース。足に自信のない人でも、所要時間３時間ほどで、総社町の史跡、文化財の見学ができる。起点は、ＪＲ前橋駅とＪＲ群馬総社駅。

国指定史跡蛇穴山古墳、宝塔山古墳の見学。総社城主秋元氏の菩提寺である光厳寺、元景寺への参拝。総社資料館、天狗岩用水、五千石用水周辺の景観、こけし工場の見学等、盛りだくさん。バスは、大渡橋西詰に停車するが、本数が少ないので事前にしっかり計画を立てておきたい。（51頁参照）

参考　大渡橋西詰のバス停留所でバスに乗降する。
〔ＪＲ群馬総社駅～蛇穴山古墳〕➡Ｐ．４～11参照
〔蛇穴山古墳～大渡橋西詰〕➡Ｐ.42・43参照

6 市街地コース


至敷島公園
岩神の飛石
光厳寺
蛇穴山古墳
大渡橋
利根川
王守神社
上越線
グリーンドーム前橋
王山古墳
中央大橋
臨江閣
丁間稲荷神社
元総社北小
元総社中
化粧薬師
宮鍋様
大友神社
車橋門跡
石倉城跡碑
前橋城跡
群馬県庁
前橋市役所
桃井小
群馬大橋
総社神社
徳蔵寺
元総社小
前橋警察署
群馬銀行本店
NHK
利根橋
龍海院
中央小
両毛線
JR前橋駅
元総社南小
JR新前橋駅
至高崎 国道17号線
平成大橋

丁間稲荷神社

龍海院山門

・コース（約10km）

JR前橋駅 —1,200m— 龍海院 —1,400m— 前橋城跡 —500m— 臨江閣 —1,000m— 王山古墳 —1,500m— 丁間稲荷神社 —1,100m— 化粧薬師 —600m— 宮鍋様 —400m— 総社神社 —1,600m— JR新前橋駅

・所要時間

・徒歩……5時間

・自転車……3時間

・概要と魅力

前橋の中央地区と元総社地区の史跡、文化財を巡るコース。距離は約10km、やや健脚向きである。所要時間は、自転車なら半日。徒歩なら1日は必要。起点は、ＪＲ前橋駅とＪＲ新前橋駅。

ＪＲ前橋駅を起点とすると、中央地区では、前橋城に関連した龍海院、前橋城車橋門跡、前橋城跡を見学。前橋公園附近で東照宮、臨江閣を見たあとグリーンドーム前橋、赤城山、榛名山を中央大橋上で眺めながら元総社地区に入る。王山古墳を見学後、上越線下の地下道を通り大友神社へ。丁間稲荷神社、宮鍋様、総社神社と神社巡りをして、ＪＲ新前橋駅へ。近代現代の中心地（中央地区）から古代の中心地（元総社地区）へタイムスリップしながら見て回るのもおもしろい。

参考

〔ＪＲ前橋駅～臨江閣〕➡Ｐ.30～37参照
〔王山古墳～丁間稲荷神社〕➡Ｐ.24～27参照
〔山王廃寺～ＪＲ新前橋駅〕➡Ｐ.14～23参照

JR群馬総社駅からの歴史散歩道

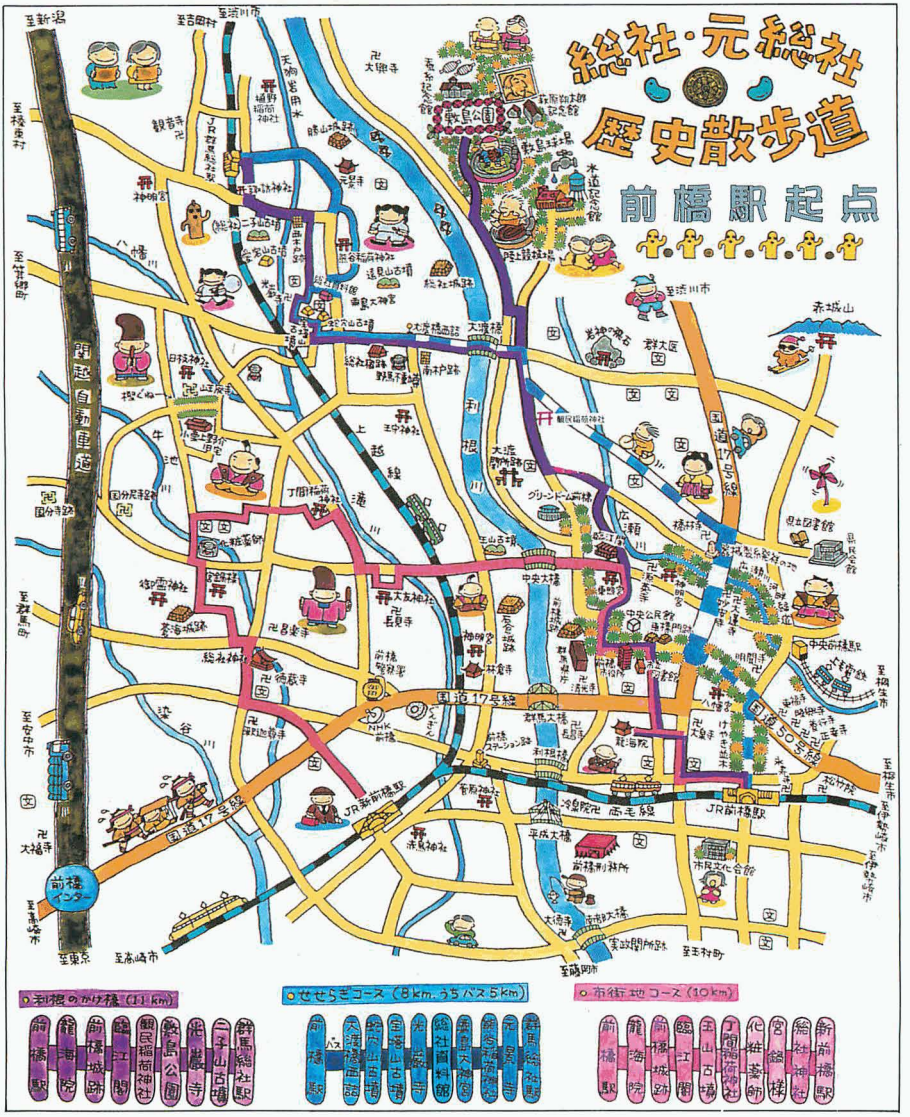
（4コース）

●ＪＲ新前橋駅からの歴史散歩道●

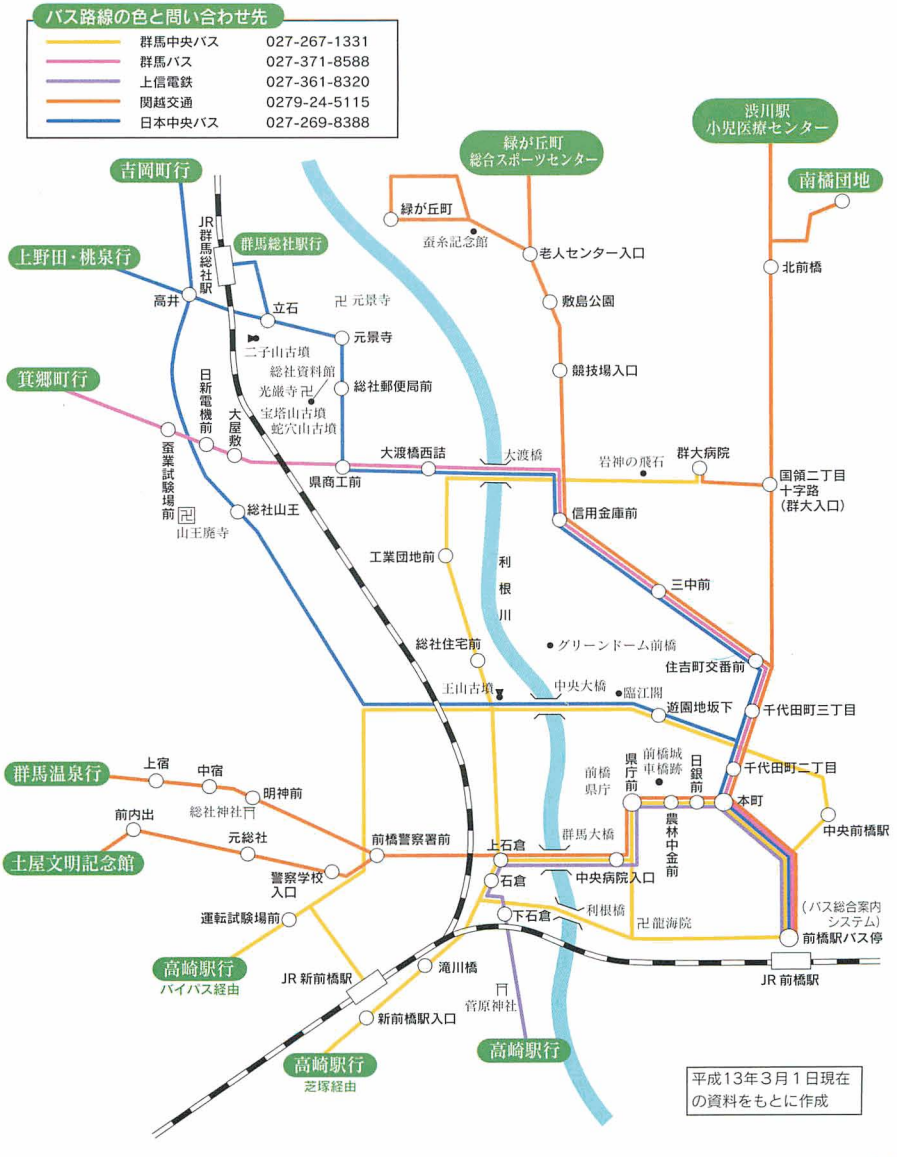
（３コース）

●JR前橋駅からの歴史散歩道●

（3コース）



バス路線



平成13年3月1日現在の資料をもとに作成

■総社古墳群

総社古墳群は、利根川西岸の榛名山東南麓に広がる古墳群で、5世紀後半から7世紀末にかけて造られた大型首長墓が中核となる古墳群である。

主な古墳を造られた順にあげていくと、遠見山古墳、王山古墳、総社二子山古墳、愛宕山古墳、宝塔山古墳、蛇穴山古墳となる。これらの古墳の形の違いでみると、遠見山・王山・総社二子山古墳までが前方後円墳で、愛宕山・宝塔山・蛇穴山古墳が方墳となっている。

この限られた地域内で前方後円墳から方墳へという変化がみられることが、総社古墳群の特色といえる。一般的には、前方後円墳から小円墳へと変化するなかで、この総社地区だけは大型方墳へと変化しているのである。しかも、愛宕山古墳、宝塔山古墳には大型の家形石棺が置かれており、この時期、家形石棺をもてるのは、大王とその一族、及び大和政権を構成する有力豪族に限定されていたことから考えると、総社古墳群の豪族は、大和政権に組み込まれるようになっていったと思われる。

7世紀後半に造られた宝塔山古墳は、仏教文化の影響を受けた格狭間という加工がほどこされている家形石棺と石を切り組んだ精巧な石積みで石室ができているところに特徴がある。また、壁面全体に漆喰が塗られた痕跡が認められる。

蛇穴山古墳は、宝塔山古墳よりさらに硬質の大型石材を見事に加工されて石室が造られており、玄室は大きな一枚岩が組み合わされている。巧みに加工された石の表面は柔らかな膨らみをみせている。宝塔山古墳同様、壁面全体に漆喰が塗られていたことがわかる。蛇穴山古墳は前橋のみならず群馬県においても最終末の古墳とみられている。

総社地区には7世紀になって時期をずらしながら愛宕山→宝塔山→蛇穴山古墳と他の地域に類をみない大きな方墳が造られたことになる。このことは総社の地に勢力を伸ばした大豪族が、大和政権と密接な関係をもちながら、古代群馬の地域を一つにまとめる巨大な勢力をもっていたことをあらわしていると考えられる。

総社古墳群の移り変わりから、古墳時代におわりを告げ、新しい時代が開けていく様子を読み取ることができるのである。

(P7,8,10,12 参照)

総社二子山古墳石室

愛宕山古墳石室

宝塔山古墳石室

蛇穴山古墳石室

■山王廃寺

山王廃寺は、大正の初めに総社町山王地区で偶然、塔の心礎が発見されてから、その存在が明らかにされるようになった。大正10年に塔心礎が調査され、昭和３年「山王塔跡」として国指定史跡になり、保存されてきた。ここからは多くの遺構・遺物が発見され、それらの研究からこの寺が、７世紀後半（白鳳期）に創建された東日本における最古の寺院のひとつであり、中央の寺院と比べても遜色のない内容を有した寺院であると考えられている。

この塔心礎の他に、石製鴟尾、根巻石、礎石など寺院の建物に関連した遺物があるが、石製鴟尾は山王廃寺の2個片の他には鳥取県の大寺廃寺の１個体が知られているだけであり、根巻石も大変珍しく貴重なものである。

昭和49年～56年の間、７次に及ぶ前橋市教育委員会の発掘調査で、塔を東に、金堂を西に配する法起寺式の伽藍配置をもつことが判明した。また、出土瓦のなかに、「放光寺」とへら書きされたものが発見され、高崎市山名町にある山上碑と上野国交替実録帳に見られる「放光寺」との関係が注目され、山王廃寺こそ「放光寺」であると認められるようになった。

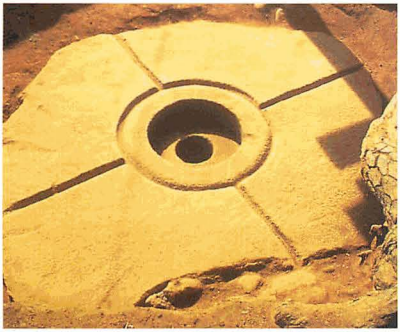
山王廃寺の寺域は、現在の日枝神社を中心に東西200m、南北200mの40,000㎡を超えるものと推定されている。

そうした中で、平成9年の調査では、寺院の建物の主要伽藍の配置がほぼ確認された。また、多量の塑像群や瓦などが出土し、平成11年の調査では、塑像頭部をはじめ、壁材、瓦、金属製品など出土した。これらの調査により、古代寺院の実態解明に一段と近づくことができるようになった。

南西1.5kmにある上野国分寺跡からは同じ文様の瓦が出土しており、国分寺に準ずる扱いをされていたものと推定される。

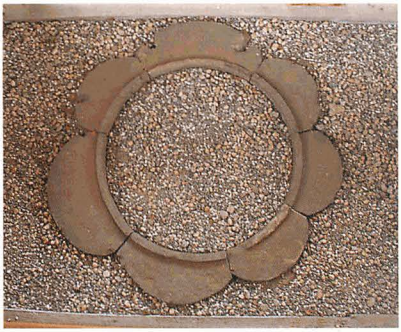
この山王廃寺が創建された時期とほぼ同じ頃、宝塔山古墳・蛇穴山古墳も造られており、両者の位置関係・古墳の石室や家形石棺と山王廃寺の石造物に同様の加工技術が見られることなどから、同じ豪族によって建てられたものと考えられ、その関連が注目されている。

（P16,17 参照）



塔心礎

放光寺銘瓦



塔心柱根巻石

石製鴟尾

塑像頭部

■秋元氏と天狗岩用水

秋元氏について後世記された「秋錦録」によると、兼朝が上総国秋元之庄に居住したことから秋元氏を名乗りはじめたといわれている。その後関東管領上杉氏に仕え、景朝の代に武蔵国深谷に住し、やがて北条氏に仕え、一時上野国植野勝山にも居住したようである。景朝は、天正18年(1590)の小田原の役後、上野国碓氷郡中野谷500石を与えられ、長朝の代の慶長6年(1601)に、総社に所替えとなり6千石を、その後1万石、1万5千石へと加増された。

寛永10年(1633)、泰朝のときに甲州谷村に所替えとなり、3千石加増、その後代々幕府の要職に就くとともに所領を川越、山形、館林とかえ、6万石で明治維新を迎えている。

このうち、総社に在ったのは長朝と泰朝で約30年間である。長朝は天狗岩用水の開削と新田開発、総社城の築城、城下町の形成などをなし、泰朝は日光造営奉行として活躍した。

慶長6年(1601)、総社城主となった長朝は領内開発のために、総社城の堀と水田を開く用水を計画した。しかし、総社の地より低い位置を流れる利根川の水を引くには、上流の他領から取水しなければならない。6千石の総社藩にとっては大変な事業であり、高崎藩の井伊氏に相談した折、「雲にはしごをかけるようなものだ」と言われたという逸話が残されている。

長朝は領民を督励するため、3年間年貢を免じ、慶長7年の春、用水路開削工事に着手した。吉岡村漆原地内で取水し、一部ずい道にして総社町立石から大屋敷の先で八幡川におとした。難工事であったが、慶長9年ようやく完成した。この間約8kmである。

この難工事を物語る「天狗来助」の伝説によれば、取水地の近くで大岩に突き当たった。そこに一人の山伏が現れて人々を指揮すると、さしもの大岩も除去できた。ほっとした人々が山伏を探したがそこには山伏はいなかった。これは天狗の援助に違いないとし、用水を天狗岩用水と名づけたという。元景寺の羽階権現はその伝説から生まれたものである。

そして、秋元氏が総社を去った百数十年後、総社領の農民は「力田遺愛碑」を秋元氏の菩提寺光巌寺に建立した。農民を愛した領主に旧領の農民が感謝の意を表した碑である。この碑は県指定史跡になっている。

(P8,9,12 参照)

総社城総社城下想像復原図

羽階権現

天狗岩用水

総社資料館の案内

総社資料館は、総社・元総社地区を中心とする歴史散歩道の案内と休憩のため、平成７年に開館した施設です。ここは、本間酒店の酒蔵を利用して整備した施設で、展示内容は次のようなものになっています。

【主な展示内容】

＜北蔵の展示内容＞

○旧石器時代の出土品　○縄文時代の出土品

○弥生時代の出土品　○総社古墳群の写真パネル

○山王廃寺の出土品　○秋元氏と天狗岩用水の関連資料

＜西倉の展示内容＞

○昔の農具、生活用具

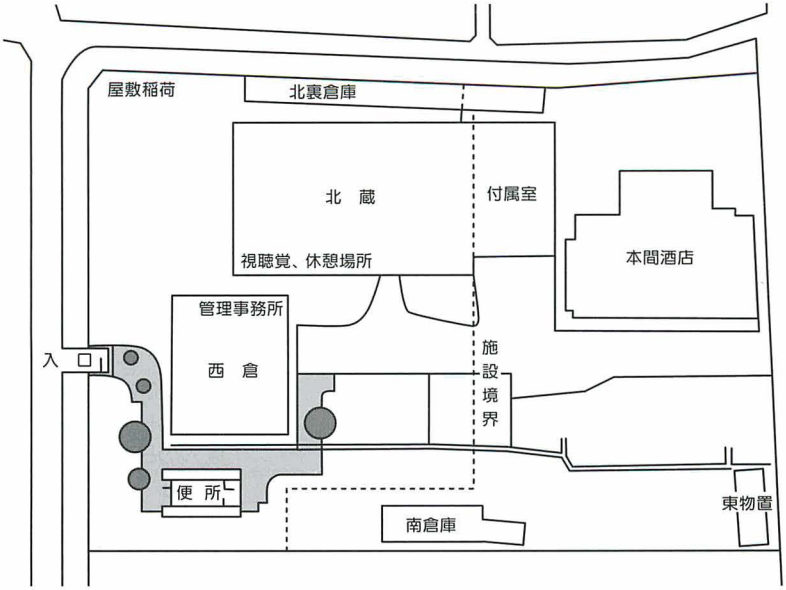
○ランプを使っていた頃・電灯が広まった頃・蛍光灯が広まった頃のそれぞれの時代の調度品と居間の様子

○養蚕農具

総社資料館全景

北蔵の様子

西倉の様子



◆ 利 用 案 内

開館日　4月～11月月曜日を除く毎日
(ただし、月曜日が祝日の場合は開館、翌日が休館)
12月～3月土曜日、日曜日、祝日
ただし、12月28日～1月4日は休館)

開館時間　午前９時～午後４時

入館料　無料

駐車場　普通自動車駐車場：前橋・伊香保線より光厳寺の黒門をくぐって、五千石用水手前の右側
大型バス駐車場：総社跨線橋下

交通案内　JR群馬総社駅より徒歩20分
日本中央バス上野田・桃泉行き総社郵便局前下車徒歩3分

住　所　前橋市総社町総社1,500

電　話　027(251)6241（FAX兼用）

行事（郷土芸能・祭礼）一覧

——総社・元総社地区——

◆総社・元総社の主な行事（市の主な行事を含む）◆

行事名	場所	祭礼日	掲載ページ
初詣で	市内各社寺	1／1	
水的の神事	総社神社	1／6	21
初市	市街地	1／9	33
筒粥・置炭の神事	総社神社	1／14	21
総社町山王の鳥追い	日枝神社(山王廃寺)	1／14に近い日曜	16
総社町立石の鳥追い	諏訪神社	成人の日	7
どんど焼き	市内各地	成人の日	
節分会	総社神社・光厳寺他	2／3	21・9
丁間稲荷まつり	丁間稲荷神社	2／初午の日	26
総社神社太々神楽	総社神社	3／15	21
植木市	立川町大通り	4／上旬	
桜の開花	敷島公園	4／上旬	40
植野稲荷神社太々神楽	植野稲荷神社	4／第1日曜	13
つつじの開花	前橋公園	5／上旬	36
ばら園まつり	敷島公園ばら園 ☎232—2891	5／中旬	41
山王百万遍念仏	日枝神社(山王廃寺)	7／16	18
七夕まつり	市街地	7／上旬	
大友町百万遍念仏	長見寺	7／17に近い日曜	26
前橋花火大会	利根川河畔	8／15	39
総社町粟島百万遍	粟島大神宮	8／22	11
総社町鍛冶町地蔵尊まつり	出口の子育て地蔵尊	8／23	11
飛石稲荷祭典	飛石稲荷神社	9／19	39
渡御行列	植野稲荷神社	10月のいずれかの日曜（1年おき）	13
立石の獅子舞	諏訪神社	10/第2土曜・日曜	7
前橋まつり	市街地	10／中旬	33
ばらの開花	敷島公園ばら園 ☎232—2891	10／下旬	41
菊花展	敷島公園ばら園 ☎232—2891	11／上旬	41
鬼子母神まつり	三河町1-18-13養行寺	11／12・13	33
大酉市	立川町大通り	12／中旬	
年越	総社神社・他	12／31	

神社・寺院一覧 ――総社・元総社地区――

◆神　社◆

名　　称	所　　在　　地	掲載ページ
植野稲荷神社	総社町桜ヶ丘1039―2	13
諏訪神社	総社町植野464	7
野馬塚神明宮	総社町総社1059	43
巣烏神社	総社町総社1138	42
粟島大神宮	総社町総社1230	11
熊谷稲荷神社	総社町総社1745	12
日枝神社（山王廃寺）	総社町総社2408	16
神明宮	総社町高井1丁目32	13
王守神社	大渡町1丁目23―7	27
総社神社	元総社町2377	21
御霊神社	元総社町1901	20
宮鍋様	元総社町2037	20
丁間稲荷神社	問屋町2丁目3―4	26
神明宮	石倉町4丁目10―4	28
菅原神社	下石倉町20	29
大友神社	大友町2丁目24	26
八坂神社	新前橋町21	
赤烏神社	古市町1丁目38―12	29

◆寺・寺院跡◆

名　　称	所　　在　　地	掲載ページ
元景寺	総社町植野150	12
光巌寺	総社町総社1607	9
野馬の不動尊	総社町二丁目3―2	43
山王廃寺	総社町総社2408（日枝神社）	16
観音寺	総社町高井63	13
釈迦尊寺	元総社町2502―2	22
徳蔵寺	元総社町2379	22
昌楽寺	元総社町3640	22
上野国分僧寺跡	元総社町・群馬町	18
上野国分尼寺跡	元総社町・群馬町	18
林倉寺	石倉町4丁目6―15	28
長見寺	大友町2丁目18―4	26
大福寺	鳥羽町771	23

石造物一覧 ――総社・元総社地区――

◆道祖神ⓐ・庚申塔ⓑ・石仏ⓒ・供養塔ⓓ・その他ⓔ◆

種別	名称	所在地	掲載ページ
ⓑ	百庚申	総社町桜ヶ丘	4
ⓓ	天明の供養塔	総社町植野150(元景寺)	12
ⓒ	石造地蔵菩薩坐像(市重文)	総社町植野150(元景寺)	12
ⓓ	輪廻塔	総社町総社1607(光巌寺)	9
ⓓ	二十二夜様	総社町総社1587―2(蛇穴山古墳)	10
ⓒ	馬頭観音	総社町高井(観音寺)	13
ⓓ	輪廻塔	青梨子町120(正法寺)	13
ⓒ	出口の子育て地蔵尊	総社町総社	11
ⓒ	山王の子育て地蔵尊	総社町総社	16
ⓔ	上野国山王廃寺塔心柱根巻石(国重文)	総社町総社2408(日枝神社)	16
ⓔ	石製鴟尾(国重美)	総社町総社2398(都丸民司氏宅)	17
ⓔ	石製鴟尾(国重美)	総社町総社2408(日枝神社)	16
ⓔ	山王塔跡(国史)	総社町総社2408(日枝神社)	16
ⓓ	多宝塔	総社町総社2377(総社神社)	21
ⓐ	双体道祖神	総社町総社2377(総社神社)	21
ⓓ	天明の多宝塔	元総社町	14
ⓓ	天明の百万遍念仏供養塔	元総社町(化粧薬師)	19
ⓒ	十王像	元総社町2379(徳蔵寺)	22
ⓓ	三大仏様	元総社町	19
ⓒ	化粧薬師(縁切り薬師)	元総社町	19
ⓑ	千庚申	元総社町(御霊神社)	20
ⓓ	二十二夜様	元総社町	23
ⓓ	笠薬師塔婆(市重文)	問屋町2丁目3(丁間稲荷神社)	26
ⓒ	片腕地蔵	石倉町4丁目(林倉寺)	29
ⓐ	兄妹道祖神	石倉町4丁目(神明宮)	29
ⓑ	百庚申	石倉町4丁目(神明宮)	28
ⓓ	石尊大権現	石倉町4丁目(神明宮)	28
ⓒ	瑠璃光薬師	下石倉町	29
ⓓ	十千万遍念仏供養塔	大友町2丁目(長見寺)	26
ⓓ	普門品供養塔	大友町2丁目(長見寺)	26
ⓓ	二十二夜様	大友町2丁目(大友神社)	26
ⓐ	双体道祖神	大友町2丁目(大友神社)	26
ⓐ	双体道祖神	鳥羽町(群馬高専前)	23
ⓓ	宝塔(市重文)	鳥羽町771(大福寺)	23

さくいん

あ 赤烏神社……29頁
愛宕山古墳……8
粟島大神宮……11
い 石倉城跡……28
石田玄圭の墓……13
岩神の飛石……39
う 植野稲荷神社……13
お 蒼海城跡……19
王守神社……27
王山古墳……27
大友神社……26
大渡の関所跡……38
大渡橋……39
大渡橋西詰(バス停)……42
小栗上野介旧宅……18
か 観音寺……13
観民稲荷神社……39
く 熊谷稲荷神社……12
グリーンドーム前橋……38
群馬県水力発電発祥の地……8
群馬県庁……34
群馬社跡……23
け けやき並木……32
源英寺……36
元景寺……12
こ 光巌寺……9
上野国府跡……20
上野国分寺跡……18
上野国分尼寺跡……18
五千石用水……8
五千石用水沿いに……12
御霊神社……20
さ 朔太郎記念館……41
猿谷橋……11
山王地区の民家と樫ぐね……17
山王の百万遍……18
山王廃寺……16
し JR群馬総社駅……7
JR新前橋駅……22
JR前橋駅……32
敷島公園……40
地蔵街道……16
釈迦尊寺……22
蛇穴山古墳……10
上越線地下道……27
商店街……37
正法寺の輪廻塔……13
昌楽寺……22
神明宮……28
す 水道資料館……40
巣鳥神社……42
菅原神社……29
諏訪神社……7
せ 関口専司の碑……7
そ 総社公民館……9
総社跨線橋……11
総社資料館……10
総社宿……8
総社宿本陣跡……11
総社城跡……12
総社城西木戸跡……8
総社城南木戸跡……43

総社神社 ……21
(総社)二子山古墳 …… 7
双体道祖神 ……23
た 大福寺の宝塔 ……23
高井の神明宮 ……13
ち 中央児童遊園 ……36
丁間稲荷神社 ……26
長見寺 ……26
長昌寺 ……33
て 出口の子育て地蔵尊 ……11
寺町 ……33
天狗岩用水 …… 8
と 東照宮 ……36
遠見山古墳 ……12
徳蔵寺 ……22
虎姫観音堂 ……37
に 二十二夜様 ……23
日本で最初の器械製糸所跡 ……37
ね 熱帯温室 ……41
の 野馬塚神明宮 ……43
野馬の不動尊 ……43
は 八幡宮 ……33
初市 ……33
花火大会 ……39
ばら園 ……41
榛名山 ……23
万代橋 ……39
ひ 広瀬川河畔緑道 ……37
ふ 風呂川 ……38
へ 平成大橋 ……29
ほ 宝塔山古墳 ……10
ま 前橋公園 ……36
前橋市蚕糸記念館 ……41
前橋市中央公民館 ……34
前橋市役所 ……34
前橋(厩橋)城跡 ……34
前橋城車橋門跡 ……34
前橋ステーション跡 ……28
前橋まつり ……33
松林 ……40
み 宮鍋様 ……20
妙安寺 ……37
め 明治時代の総社宿 ……43
や 山賀家レンガ蔵……42
よ 八日市場城跡 ……22
り 龍海院 ……33
力田遺愛碑 …… 9
臨江閣 ……36
林倉寺 ……28
る 瑠璃光薬師 ……29

伝説一覧

- 岩神の飛石……39
- お艶が岩……41
- 片腕地蔵……29
- 兄妹道祖神……29
- 化粧薬師……19
- 元景寺の梅……13
- 蛇穴山古墳……10
- 玉照姫と釈迦尊寺……22
- 初夢と龍海院……33
- 前橋城と古狸……34
- 丸橋忠弥と総社…… 7
- 義経と静御前……39

見学のときの注意事項

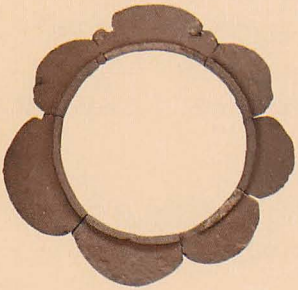
1．個人宅や私有地に入る場合は、許可を得ましょう。
2．古墳石室内の見学は、懐中電燈を持参しましょう。
3．車で巡る場合は、駐車場が少ないので、迷惑のかからない場所に駐車しましょう。
4．見学場所にはトイレが少ないので、出発点となる駅などですませておきましょう。
5．交通量の多い道路を通るときや危険箇所は、事故が起きないように十分注意しましょう。
6．服装は活動しやすい支度で、靴は運動靴がよいでしょう。

表　紙　上野国分寺跡・宝塔山古墳石室・蛇穴山古墳・総社神社・山王廃寺推定復原図
裏表紙　山王廃寺塔心柱根巻石

総社・元総社　歴史とロマンの散歩道

平成13年３月10日　印刷
平成13年３月15日　発行

発　行　前　橋　市　教　育　委　員　会
前橋市大手町２－12－1　Tel 027－224－1111

編　集　前橋市教育委員会　文化財保護課
前橋市三俣町２-10-２　Tel027-231-9875・9531

印　刷　朝日印刷工業株式会社
前橋市元総社町67　Tel 027－251－1212